

竹島紀事 一卷

竹島紀事序

竹島の事、元禄癸酉の年に始りて同己卯の年に畢れり、其の間前後七年を閲しなり、然も此の事いまた其の記録せしあらざるによりて、此事を克明をして此の編をあらわしむ、大抵此の始末共、年の久しきを閲たりしゆへ、いはゆる事校の変既に多端にしてまたもつて、かの考に備ふべき、翹に一二ならず、克明能くために心を竭して此の編を成して、また間其の所見を附し、もつて鑑を他日に存せしものなり、ねかはくは覽る人の能くこれを察して、徒に記録をもつて例して視ることなからむことを、夫竹島の事これより先を

萬松院公の御時にありてかつて論難ありし子細善隣返書に見へしもの、また予か著すところの朝鮮通交大紀に編し及しぬ、宜しく此の編に參へ見るへし、今此のあめる克明の心を用ゆる、おふかたならざるをおもひて始めてこれか梗概を序して、もつて後の人に告て、其の事の詳なるかことをは覽る人能くこれを此編に尽さむ 時

享保十一酉年臘月 日

松浦儀右衛門充任題

竹嶋紀事編集之凡例

- 一 竹嶋之一件元禄六癸酉年ニ始り、同十二丁卯年ニ終り候得共、其初御記録編集無之候付、享保十一甲午年御記録被仰付候處、參判使兩府之記録茂脱簡等在之、江戸朝鮮往復之書状も連続不仕、其上三十年を經候事故、御帳面茂虫損ニ及全備不致候故、諸帳面を考合相知レ候分を以編集仕候事
- 一 数百枚之御記録故書キ続ケニ仕候而者御考之節難見分ケ候故、一段之大綱を二三字高ク書載仕、其次ニ、二三字下ケ條書ニ微細なる儀を書載仕り、一段つゝ段を分ケ申候事  
附り條書之分者、状控日帳等之文句を大方其僱用イ置候事
- 一 事実之始末見分ケ安ク候様ニ編集仕候故、往復書状之内より考出候儀者、文句を少つゝ相改記録言葉ニ直シ書載仕、書状を載せ不申候而難罷成所ハ、書状之略を記し全文ハ載せ不申事
- 一 此一件前後七年之間ニ而、御国御三代ニ及び御称号粉敷、殊数年之後編集仕候儀故、御称号を書載仕候所ニハ何茂御院号を相用候事
- 一 御書簡往復を載せ候所ハ輪番書稿之内より書拔載之、尤全篇者輪番書稿ニ詳ニ書載在之候故別幅者相省置候事  
附り大差再座之返簡者、輪番書稿ニ無之候故、多田与左衛門日帳之内より書拔候、尤別幅者日帳ニ相見江不申候事
- 一 御奉書并御老中江之御達状御口上書長崎御奉行等江之御状其外御使者等江被仰渡候御書付御使者伺書等之類者、何茂全文を書載候事
- 一 真文之書キ物ハ何茂全文を載せ候得共、短簡控等紛失之類ハ其外ニ冊紙を残し置、重而考出候人有之時書載せ可申事
- 一 此御記録編集之始末 天龍院公御実録之次第を以相考候事
- 一 杉村采女大差被仰付候事者、御帳面之趣不詳候故、采女自分之覚書を以書載せ候事
- 一 因州江朝鮮人罷越候次第御記録不相見候故、江戸表取扱之儀者大浦忠左衛門自分之覚書

を以記之、因州江之御使者一件者鈴木權平覺書を以書載仕候事

右之例を以、編集仕候共御帳面等全備不仕候故、委細成事者難考書事も在之、極而  
事実之脱漏も可在之候間、重而幾度も交合被仰付、増補被遊候ニ与奉存候事

享保十一甲午年臘月 日

編集 越 常右衛門

執筆 大浦陸右衛門

此書編を成せし後、雨森東五郎この事の始末を知れるによりて東五郎に仰せて訂補  
せしめられしや

### 竹嶋紀事

- 癸酉元禄六年五月十三日於江戸、御老中土屋相模守様より御留守居江被仰渡候者、去年  
朝鮮人竹嶋与申所江漁として罷越候を松平伯耆守方より見届、重而不罷越候様ニ与被申  
合候所、当年又々朝鮮人四拾人程罷越、漁いたし候故其内式人召捕置 公儀江及御案  
内候ニ付、則長崎奉行所江送届、對州江被相届候様ニ被仰出候、委細長崎奉行所より可  
申参候間、向後不罷越候様ニ与對州江申遣候得之由被仰渡也

江戸表田嶋十郎兵衛方より到来書状之略左ニ記之

〳 一昨十三日之暮方御月番土屋相模守様御家来衆より聞番共方江、以手紙御用之儀候間、  
唯今一人罷出候様ニ与申来候付、鈴木半兵衛参上仕候處、御用人小畑元右衛門罷出被申  
聞候者、竹嶋与申所江去年朝鮮人罷越漁仕候、依之松平伯耆守様より御見届、重而不参  
候様ニ与被仰合御返候處、又々当年人数四十人程罷越、漁仕候故右人数之内式人御捕置  
公儀江御案内有之候付、長崎御奉行所江被送届、長崎より對州江御届候様ニ、与被仰渡  
候、委細長崎御奉行所より可申参候間、向後弥不参候様ニ堅朝鮮表江被仰遣候様ニ、御  
国元江被申越候様ニ与相模守申候、今日右之段於 殿中高城越前守様江被仰渡候得者、  
其元より茂御届有之、可然旨、元右衛門被申聞候、右竹嶋与申所ハ伯耆守様御領内にて  
も無之、因幡より百六十里程も有之所ニ而御座候、砲之名物ニ而御代々伯耆守様より竹  
嶋砲 公儀江御献上被成場所之由ニ御座候、即晚高城越前守様江、半兵衛差出右之段  
申上候得者、越前守様御逢被成、今日於 殿中御老中方御列座、拙者江茂被仰渡候付長  
崎表江委細申越候、被入念被申聞趣承届候、弥御国元江も急度被申越、重而不参候様ニ  
堅朝鮮表江被仰遣候様ニ与之御事ニ御座候、右之段阿部豊後守様江茂、半兵衛差出御用  
人衆迄申上置候、尤今度被仰渡候御請相模守様江御宛可被差越候、重而朝鮮江被送届返  
翰到来之節、常之通、豊後守様江相伺御差函之御方江差出可申候

〳 右江戸来状六月三日到来ニ付、同五日之日付を以御請御状被差上候、尤右朝鮮人平生之  
漂流与ハ違ひ、質人之様ニ相聞江候故、彼者とも為請取、長崎江御使者被差越候、朝鮮  
江被送届返翰到来之節御案内可被仰上候、平生之漂流人二者、此方より請取之使者不被  
遣候得者、右之訊ニ付被仰越候与之儀、江戸表田嶋十郎兵衛方江御国杉村采女、樋口孫  
左衛門、多田与左衛門、平田直右衛門方より連名書状ニ申遣之御請之御状ニ通左記之

一筆致啓上候、竹嶋与申所江朝鮮人四十人程罷越、漁仕候故、右之内式人留置段松平伯  
耆守方被送案内候付、長崎御奉行所江被送遣候間請取之、向後不罷渡候様ニ朝鮮国江可

申遣之旨被仰付之趣承知仕奉得其意候、此段為可申上如此御座候、恐惶謹言

六月五日

土屋相模守様

一筆致啓上候、竹嶋与申所江朝鮮人四十人程罷越獵仕候故、右之内式人留置段松平伯耆守殿被逐案内候付、長崎御奉行所江被送遣候間、請取之、向後不罷渡候様朝鮮国江可申遣之旨、從土屋相模守殿私家來被召寄被仰付候連申越奉得其意候、此段為可申上如此御座候 恐惶謹言

六月五日

阿部豊後守様

〃右御向所様江被差上候御返事御奉書左ニ写之

貴札令拝見候、竹嶋江罷越獵仕候朝鮮人之内、留置候二人長崎奉行所江送遣候間被請取之、向後不相渡候様ニ与先頃申達候趣被得其意候、依之御紙面之通令承知候 恐惶謹言

土屋相模守

政直在判

八月廿二日

宋對馬守殿

御館

御状令披見候、竹嶋江罷越候朝鮮人彼国江送返候様ニ与、最前家來江申渡候趣被得其意之旨承届候、紙面之通各一覽之事候 恐々謹言

阿部豊後守

正武在判

八月廿三日

宋對馬守殿

〃右御到來ニ付、竹嶋之儀、内々聞合のため五月五日杉村采女方より在館之通詞中山加兵衛方江左之通相尋遣候

〃竹嶋之儀朝鮮ニ而ハブルンセミト申候由被申越候、竹嶋与書候而朝鮮読ニブルンセミト申候哉、ブルンセミトハ如何様ニ書申候哉、鬱陵嶋与申嶋有之候、是を下々之詞ニブルンセミトハ不申候哉、日本ニ而者鬱陵嶋之儀を磯竹と申候、鬱陵嶋とブルンセミハ別之嶋ニ而有之候哉、ブルンセミを日本人ハ竹嶋と申候与申儀者、誰之咄ニ而被承候哉

〃竹嶋江ハ去々年より初而罷渡候哉、以前より渡候得共隠シ候而、去々年より罷渡候与申候哉、朝鮮人共自分之持之為密々罷渡申事ニ候哉、又々 公儀より差図ニ而罷渡候哉、当年も又々罷渡たる事ニ候哉

〃竹嶋江日本より十二三端之船式三艘宛毎歲罷渡、彼嶋江長小屋を三四軒茂掛置候由被申越候、于今其通ニ仕候哉、日本人者何之国之者共ニ而有之候哉

〃竹嶋者朝鮮国より何方江当り、何之所より何風ニ而乗候与之儀、海路何程之大キサ如何程有之候哉、尤御国より者何方江当り、凡海路何程可有之候哉、尤貴殿より之口上書ニ書載有之候得共、又々得与可被承候

右之段々委細ニ承度候様子ニより 公儀江茂御案内被仰上事ニ候間、何とそ懇志之

朝鮮人江密ニ相尋、書付早々可被差越、隨成咄ニ而無之候共、下々之咄ニ而茂被承候  
通、委書付可被差越候、此段為可申入如此候

通詞中山加兵衛方より六月十三日之書状を以右返答申越候付左記之

〃当年も彼嶋江為持、釜山浦より商売船三艘罷越候由承届候付、ハンビチヤグ与申釜山之  
唐人相加、嶋之様子庄大夫具見届、海路ニ至迄入念候様ニ申付、態右之者共ニ相加差越  
候、帰着次第具承、追而可申上候、先、荒増承候通別紙書付差上候

乍恐口上之覚

〃ブルンセミ之儀嶋達ニ而御座候、具承届候処、ウルチントウト申嶋ニ而御座候、ブルン  
セミ之儀者ウルチントウト申嶋ニ而御座候、ブルンセミ之儀者ウルチントウより北東ニ  
当かすかに相見申由承候事

〃ウルチントウ嶋の大サ一日半廻り程有之由ニ御座候、尤高山ニ而田畑大木等有之候由承  
及候事

〃ウルチントウ江者江原道之内エグハイと申浦より南風ニ出帆仕候由承及候事

〃ウルチントウ江通申候事去々年より罷渡候儀相違無御座候事

〃ウルチントウ江罷渡候儀、公儀江相知不申、自分之為持密々ニ罷渡候事

右之外之儀ハンビチヤグ帰着次第具承届、重而委細可申上候

- 同六年六月竹嶋江罷越、被捕置候朝鮮人式人迎護として御使者嶋雄慶右衛門長崎江被差  
越、御奉行所江被仰遣候ハ、当年竹嶋与申所江朝鮮人四十人罷越漁いたし候を、松平伯  
耆守殿より被見届、右之内式人被召捕 公儀江及御案内候付、其元江被送遣候条、各様  
より請取候様ニ委細ハ各より可被仰渡之旨、於江戸去ル五月十三日土屋相模守殿より家  
来被召寄被仰渡候、依之使者差越候間、具ニ可被仰聞由被仰遣也

〃右御使者江相附被差越候長崎御奉行所江之御状左ニ記之

一筆令啓上候、竹嶋与申所江朝鮮人四十人程罷越、致漁候付、松平伯耆守より右之内式  
人被留置被送案内候付、其元江被送遣候間、各より拙子方江請取之、彼国江可送返之旨、  
御老中より被仰渡候、依之差越使者候条委曲口上申合候 恐惶謹言

六月五日

川口攝津守 一紙

山岡對馬守

〃朝鮮人警固之為組之者四人慶右衛門江相附差越之

〃朝鮮人式人五月七日因幡発足、六月晦日長崎江到着、因幡より護送之御使者松平伯耆守  
様御家来山田興左衛門、平井甚衛門惣人数九拾余人相附、尤朝鮮人駕籠にて被相送候

〃七月朔日御奉行川口攝津守様江此方御留守居濱田源兵衛通詞召連罷出候所、而御奉行御  
同座ニ而、朝鮮人被召出様子御尋被成、則朝鮮人申分口上書相認差出候様ニ与被仰出、  
則下書仕り入御覽候所、因幡ニ而之口上書与相違無之様ニ与之御事ニ而、少々文句御改  
被成請書いたし明日差上候様ニ与被仰渡

〃朝鮮人申分因幡ニ而之口上ニ相違無之候故、朝鮮人式人ハ濱田源兵衛江御預ケ被成候由  
被仰渡

〃朝鮮人口上書并道具左ニ記之

朝鮮人式人申由

一 朝鮮國慶尚道之内東萊之郡釜山浦之安ヨクホキ、蔚山之朴トラヒ与申者ニ而御座候、我々儀、蔚山与申所より竹嶋与申所江廻、若布拵ニ三月十一日ニ出帆仕、同廿五日ニ寧海与申所ニ参着仕、其所を同廿七日辰之刻ニ出帆仕、酉之刻竹嶋江参着仕、右之廻、若布拵逗留仕居申候所ニ日本人四月十七日ニ我々罷在候所ニ罷出、則着物杯入置申候ひら包をおさめ、我々兩人彼方之船ニ乗せ即刻午之刻ニ出帆仕、鳥取江五月朔日未刻罷着申候、常ニ竹嶋之儀廻、若布大分御座候段承及申候ニ付、船壹艘二十人に乘組、寧海与申所迄罷越候処、右拾人之内壹人ハ相煩申ニ付寧海江残置、九人乘組右之竹嶋江罷越申候、拾人之内九人ハ蔚山之者、同壹人ハ釜山浦之者ニ而御座候御事

一 我々乗船類船共ニ三艘之内一艘ハ全羅道之船与承及申候、則人数十七人乗、同壹艘者十五人乗、慶尚道之内加徳与申所之者与承及申候、我々儀日本之様ことらえ被越候付、彼者共儀即刻朝鮮江罷帰候共、何方ニ参候共前後之儀不存奉候御事

一 此度我々共廻取ニ参候嶋之儀、常ニ朝鮮国にてハムルグセム与申候、日本之内竹嶋与申所之由ハ此度承申候御事

一 今度爰許迄罷越候内、警固之衆より御馳走ニ而罷越候、布木綿衣類等も被下申請候、委細因幡ニ而之口書ニ申上候通相違無御座候御事

一 我々共常ニ祝着を念し申候御事

一 朴トラヒ歳三拾四、安ヨクホキ歳四拾ニ罷成候、然所ニ因幡ニ而歳四拾三与申上候由ニ御座候得共、是又言葉駈与通シ不申候故相違も可有御座哉与奉存候御事

右之通竹嶋江参候朝鮮人申上候付、書付差上申候 以上

元禄六年癸酉七月朔日 <sup>尊</sup> 末次七郎兵衛 印

通詞 (大浦格兵衛 印  
加勢藤五郎 印)

宋對馬守内

濱田源兵衛 印

覚

- 一 布帷子 七
- 一 湯かた 壹
- 一 風呂敷 貳
- 一 鏡 壹面
- 一 唐笠 壹本
- 一 布手拭 三ツ
- 一 煙器 貳本
- 一 皮多葉粉入 貳
- 一 布帯 壹筋
- 一 木綿布子 壹
- 一 布足袋 貳足
- 一 かや 壹張

右者從伯耆守様朝鮮人ニ被下之候分

一	木綿裕	五
一	布帷子	四
一	まんきん	式
一	木綿単物上斗	壹
一	木綿綿入下斗	壹
一	打帯	式筋
一	木綿帯	式筋
一	笠	式
一	木綿足袋	壹足
一	さすか	壹本
一	虎のきはか之指	壹
一	船手形	三枚
一	木札	式枚

右者朝鮮人持渡候分何茂無違請取申候 以上

宋對馬守内

濱田源兵衛 印

此書付ハ私<sup>書</sup>老人之名ニ而差上申候、是も江戸表江被差上候由源兵衛方より申越

- 同六年七月迎護之御使者嶋雄慶右衛門長崎より帰着在之、竹嶋ニ而被捕候朝鮮人六月晦日長崎江致到着、勿論朝鮮人申分鳥取ニ而之口書ニ相違無之候得者、此段江戸表江御注進ニ被及候故、江戸御下知次第朝鮮人御使者へ可被相渡候、夫迄御使者逗留之儀如何ニ被思召候間、帰国候様ニ与御奉行より被仰渡、朝鮮人不相受取帰国在之也

〃長崎御奉行川口攝津守様、山岡對馬守様より之御返書左ニ記之

去月五日之覚書同廿日到来拜見仕候、然者竹嶋与申所江朝鮮人四十人程罷越、致漁候付、松平伯耆守殿より右之内式人被留置、其段御老中江被仰上候處、当地江被差送候之様ニ与被仰渡候間、本国江可被差返旨從御老中被仰渡候、依之御使者被差遣、委曲御口上之趣致承知候、朝鮮人一昨晦日伯耆守殿より送来請取之、則召出遂穿鑿候處、於江府從伯耆守殿御老中江被仰上候趣相違無御座候、右朝鮮人御使者之衆江可相渡候得共、江戸江及注進御下知到来次第相渡可申候、夫迄ハ当地ニ被差置候御家来衆江預置申候、御使者之衆御下知到来仕迄被相待候儀如何ニ存候間、被罷帰候共勝手次第ニ被仕候様ニ与申達候 恐惶謹言

七月二日

山岡對馬守

景助御在判

川口攝津守

宗恒御在判

宋對馬守様

尊館

〃是より前七月朔日此方御使者慶右衛門長崎逗留之内、川口攝津守様より罷出候様ニ与之儀ニ付、慶右衛門罷出候處、両御奉行御対面被成、朝鮮人因幡ニ而之口書之趣、爰

元ニ而御尋被成候趣相違無之候、然とも江戸表江御案内被仰上候御返事到来次第朝鮮人御渡被成事候、御下知到来迄使者相待候とも又者国元江罷帰候而、重而罷越候茂大儀之事候、兎角使者江ハ御暇被遣候間勝手次第帰国仕候様ニ、朝鮮人者濱田源兵衛ニ御預被成与之御事ニ而翌二日御返書御渡被成

- 同六年七月再度迎護之為御使者一宮助左衛門長崎江被差越、御奉行江被仰越候者、竹嶋江罷渡候朝鮮人其地江相違、御吟味之上相違之儀無之候ニ付、江戸表江御注進被成候御下知到来迄朝鮮人之儀、其元江差置候家来江御預ケ置被成候由致承知候、此度之朝鮮人者格別之訳ニ御座候故、船中為警固又々使者被差越候与之儀被仰遣也

〃右御使者助左衛門江相附被差越候長崎御奉行江之御状左ニ記之

乍御報去二日之御廻札令拜見候、竹嶋江罷越候朝鮮人去月晦日從松平伯耆守殿被送越、則被逐御吟味候處、於江府御老中江伯耆守殿より被申上候趣相違無之候付、江戸表江御注進被成候御下知到来迄者、其元江差置候家来江御預置候之間、使者之儀者勝手次第罷帰候様ニ与被仰渡候由御紙面之通具ニ御承知候、定而今程江戸より御左右御到来可有御座与察存候、此度之朝鮮人者格別之儀ニ御座候、船中為警固又々使者差越候委曲口上申上候 恐惶謹言

七月十八日

川口攝津守様

山岡對馬守様

〃竹嶋江罷越候朝鮮人之儀者、平生之漂流人と違ひ長崎御奉行所より此方江御受取被成、重而竹嶋江不罷越様ニ朝鮮江被仰遣候様ニ被蒙仰質人之心持ニ候故、格別ニ迎使被差越候処、長崎御留守居御使者共ニ其心付無之、御奉行所より江戸御到来在之候迄、御使者逗留之儀大儀ニ思召、相待候も又者令帰国又々罷越候も御使者勝手次第与在之候を、船中朝鮮人警固無之候而も不苦事与了簡違ニ而慶右衛門令帰国候故、又々一宮助左衛門被差越迎使被仰付也

右濱田源兵衛方江遣候書状之略

- 同六年八月十四日長崎御奉行所江朝鮮人迎使一宮助左衛門并此方御留守居濱田源兵衛被召寄、御奉行川口攝津守様、山岡對馬守様御同然ニ被仰渡候ハ、今日江戸表より御到来在之竹嶋江罷越候朝鮮人對馬守殿江相渡候様被仰付候間、源兵衛江御預ケ置被成候朝鮮人式人迎使相受取令帰国候様ニ与被仰渡、則助左衛門請取候也

〃右同日濱田源兵衛江御奉行所より被仰渡候ハ、平生之朝鮮濱人江者長崎逗留中 公儀より御賄被仰付候得とも、今度竹嶋江罷越候朝鮮人者御賄不被仰付候との儀被仰渡候

〃同日源兵衛御奉行所江申上候ハ、朝鮮人對州迄之船中若難風ニ逢候事茂可在之下、左様之節難義不仕様ニ御證文御渡被下候様ニ申上候所、弥御證文可被仰付旨被仰渡

- 同六年九月三日竹嶋江罷越候朝鮮人式人迎護使一宮助左衛門相附御国着船也

〃長崎御奉行より之御添状浦觸御證文左ニ記之

先月十八日乍御再報尊書拜見仕候、然者竹嶋江罷越候朝鮮人從松平伯耆守殿先頃当地

江送来候付、委細其節御使者江申進候通被聞召、右朝鮮人船中為警固一宮助左衛門方被差越御紙面致承知候、今日從江戸御繼飛脚到来朝鮮人其許江差遣、向後竹嶋江渡海不仕候様可被仰付之由、從拙者共可相達旨從御老中被仰下候、委曲助左衛門方ニ申合、則朝鮮人兩人相渡之候 恐惶謹言

八月十三日

山岡對馬守

景助 御在判

川口攝津守

宗恒 御在判

宋對馬守様

尊館

朝鮮國慶尚道之内東萊之郡釜山浦之者老人、蔚山之者老人当三月竹嶋与申所江罷渡候付、右武人之朝鮮人宋對馬守方家来江相渡之、警固船ニ為乘、對州江差越朝鮮國江送戻候間浦々相違有之間敷候、自然水薪無之、風波烈惡敷所繫候節者、無滯様に可被相通候 以上

元禄六年酉八月十六日

山岡對馬守 印

川口攝津守 印

所々浦

番衆中

〃朝鮮人宿御使者屋江被仰付、宿番御徒士四人組之者四人被仰付、朝鮮人内外江出入不仕様申渡

〃長崎より彼地在役之通詞老人加勢傳五郎朝鮮人江相对来ル

〃朝鮮人御国着船ニ付長崎御奉行所より被相附候、浦觸御證文被差返候ニ付御奉行所江御状被差越ル

〃右往復之御状左ニ記之

貴札令拜見候、竹嶋江罷越候朝鮮人之儀江戸表より就御差函、拙者家来江御渡、去二日無異儀對府江令着岸候、向後竹嶋江渡海不仕候様ニ可申付之旨、從御老中被仰越之由奉得其意、則其旨彼國江可申遣候、且又右之朝鮮人江被差添候海路之御證文老通今度令返進候 恐惶謹言

九月五日

川口攝津守様

山岡對馬守様

去五日午尊報御飛札今日相達拜見仕候、竹嶋江罷越候朝鮮人先頃御家来江相渡差遣候処、今月二日無異儀對府致着岸候之由、向後竹嶋江渡海不仕様可被仰付旨、從御老中御差函付其段申上候處、其旨彼國江可被仰遣由致承知候、且又右之朝鮮人江差添遣候海路之證文老通被差返請取申候 恐惶謹言

九月廿四日

山岡對馬守

景助御在判

川口攝津守

宗恒御在判

宗對馬守様



○ 同六年九月四日大目付門野九郎左衛門を以朝鮮人問情被仰付也

朝鮮人口書

- 一 我々兩人之内老耆人者釜山浦之者アンヨグト申候、老耆人ハウルサン之者バクトラビト申者ニ而御座候、我々一艘二十人乗組候處、内老耆人相煩申ニ付<sup>ウラサ</sup>海与申所ニ残置九人乗竹嶋ニ罷渡候

船頭 キムヨチヤキ

キンバタイ

キンデントイ

ウルサン之者

セコチ

イハニ

キムトグソイ

チャグチヤチユン

右老耆ニ乗組ウルサンより仕出、三月十一日乗組仕、同十五日ニウルサン出船仕、同日ウルサン之内ブイカイ与申所ニ罷着、同廿五日ブルカイ出帆仕、慶尚道之内エンバイ与申所ニ罷着、同廿七日辰之刻エンハイ出帆仕、同日酉刻竹嶋江罷着申候、エンハイ与竹嶋之間五十里程も可有之歟与覚申候、朝鮮江原道より東ニ当り申候、嶋之程朝鮮牧之嶋より少大ニ見へ申候、山之様子険阻ニシテ高く御座候

- 一 彼嶋ニ鳥類獸類魚類ニ至迄別而いなもの無御座候、祇こ大分居申候
- 一 彼嶋に古キ小屋をこぼち候道具御座候、如何様日本人之住跡之様ニ被存候
- 一 彼嶋之名を朝鮮ニ而ムルグセム与申候
- 一 彼嶋之儀日本ニ而御座候も朝鮮之地ニ而御座候も一円存不申候、日本ニ罷渡候而日本之地ニ而御座候由初而承申候
- 一 類船之儀老耆者全羅道之内シユンデン与申所之船ニ而人数十七人乗組、同老耆ハ慶尚道之内カトク与申所之船人数十六人乗組、式艘共ニ四月五日彼嶋ニ参候、式艘之人数船頭を初為存者老耆人も無御座候
- 一 我々船ニ食飯之用ニ米拾俵塩三俵乗せ参候、其外荷物無御座候、尤類船之様子も我々乗船同前ニ而御座候
- 一 我々彼嶋ニ罷渡候儀、若布大分有之由承存持ニ罷越候、類船とても其通御座候、別而商売之心懸ニ而曾而無御座候
- 一 彼嶋ニ而日本人与商売曾而不仕候、類船之儀者如何様ニ御座候も不存候
- 一 我々之儀今度初而彼嶋ニ罷渡候、乗組之内キンバタイ与申者、去年彼嶋江一度持ニ罷渡、様子為存者ニ御座候故我々茂罷渡候
- 一 カトク之船へ兩人彼嶋江前以老耆度渡り候者有之由承及候
- 一 我々彼嶋ニ罷渡候儀、別而忍ひ申儀曾而無御座候、去年もウルサン之者廿人程罷渡候、尤公儀より之差図与申儀も無之候、自分之持ニ罷渡候
- 一 彼嶋ニ朝鮮国より渡り候儀、古より渡来候哉、近年より渡候哉、左様之様子者曾而存不申候
- 一 我々彼嶋ニ罷在候内小屋を掛、小屋之番ニハクトラヒ与申者残置候處ニ四月十七日ニ日本船一艘参り、天間ニ七八人乗候而右之小屋ニ参ハクトラヒを捕、天間へ乗せ、尤小屋ニ置候平包老耆取乗せ罷出候付、アンヨグ其所ニ参断申、ハクトラヒを陸江揚

可申与存、天間二乗候へハ、早速船を出し兩人共二本船二乗せ、早速出船仕、隠岐  
国二同廿二日二罷着申候、其間者洋中二罷在候

一 同廿八日二隠岐国出船仕、五月朔日二取鳥罷着、三十四日逗留仕、取鳥ウツトリ発足仕、同  
晦日長崎表江着仕候

一 取鳥ウツトリ発足仕、長崎表江廿六日振二罷着申候、其間所々ニ而御馳走被仰付候、膳部一  
汁七八菜程宛ニ而御座候、兩人共二乗物ニ而長崎迄罷通候以上

九月四日

〃此時 天龍院公御近所役加納幸之助を以被仰出候ハ、竹嶋之儀磯竹嶋とも申、先  
年 大猷大君御代彼嶋江磯竹弥左衛門、仁左衛門与申者住居いたし居候を召捕被差  
出候様ニ与 光雲院公江被仰付、則此方より被召捕被差出たる事在之候、然者竹嶋  
之儀日本伯耆之内之嶋与 公儀ニ被思召候ハ、伯耆之太守より弥左衛門、仁左衛  
門召捕被差出候様ニ可被仰付之所、御国江被仰渡候ハ朝鮮之竹嶋与被思召上たる事  
与相見へ候間、右之次第一応 公儀江御伺被成思召之程得与御聞被成候上、朝鮮  
江可被仰懸哉与之御事ニ候所、此時之衆儀 公命を以朝鮮江被仰進候ハ、連難ニ  
及申間敷との事ニ而、押而参判使を以被仰遣候由也

○ 同六年十月竹嶋一件之儀被仰遣候大差使之正官多田與左衛門、都船主門山郷左衛門、封  
進寺崎与四右衛門渡海被仰付、礼曹参判江以御書簡、近年貴国之船日本之内竹嶋江罷越  
候付、重而不参様ニ申付追返候所、当春又々貴国之漁民四拾人程竹嶋江罷越漁仕候故、  
為後證其内式人召捕終始之様子具二領主より 公儀江案内有之候へハ今度之儀者被差  
返候、重而彼地江不罷越候様ニ堅可申渡旨從 公儀蒙仰付候、如斯之仕形至而大切成  
事候条、急度可被仰付候、則兩人之者今度送返右之趣使者委曲口上ニ申合候与之儀被仰  
遣也

〃多田與左衛門持渡礼曹参判参議東萊釜山江之御書簡之写左ニ記之

日本國對馬州太守拾遺平 義倫 奉書  
朝鮮國禮曹参判大人 閣下  
金廳秋暮秋暮恭惟  
貴國安寧  
本邦一揆茲告  
貴域瀕海漁氓比年行舟於  
本國竹島竊為漁採極是不可到之地也故去官  
詳諭國禁固為不可再而乃使渠輩盡退還矣

然今春亦復不顧國禁漁氓四拾餘口往入竹

鳥雜然漁採由是土官拘留其漁氓貳人而為質

於州司以為一時之證故我

國因幡州牧速以前後事狀馳

啓

東都蒙令被漁氓附與弊邑以還本土自空而後決莫

容漁舡於彼鳥彌可存制禁不佞今奉

東都之命以報知

貴國想失我

駭下汎愛黎庶無間遠近既往不容唯緣

鴻庇而貳人漁氓全還故主也此事雖出于小民之私

而其實所係非小

兩國交誼不生釁釁豈可不思無妄之禍耶速加

政令於邊浦堅制禁條於漁民則

隣睦悠久之一好事也仍差遣正官攝真重都般主

平衣貞今爰四還漁氓貳人悉附使伶口申菲儀別

錄聊表遐悃

亮納幸甚統希

炳亮肅此不宣

元祿六年癸酉九月 日

對馬州太守拾遺平 義倫

日本國對馬州太守拾遺平 義倫 奉書

朝鮮國禮曹叅議大人 閣下

寒威在近遐惟

貴國晏安清

本邦同軌茲 告

貴國邊海漁民頻年行舟於

本國竹島靈龜有漁採者極是不可到之地也以致土官

詳諭國禁固步不冉乃使乘船逐還矣然今春亦復

四拾餘口來于竹島亦自然漁採由是土官拘其漁

民貳人而為質於州司以為一時之證故

本國因幡州牧達以前後事狀馳

啓

東都蒙命被漁民附與弊邑以還本土自今以往決莫

容漁舟於彼島彌可存制禁不佞今奉

東都之命以告報

貴國仍想我

殿下包荒仁德既往不咎唯緣

恩施而載人漁氓今還故土也此事雖出于小民之私而其實所係非小最不容易莫敢忽之存加

嚴禁使毋角漁民慎守法制則

德隣之誼益惟永好茲差遣正官橋真重都船主

平友貞今方回還漁民載人曲折附在使古薄儀

侑穢庸申遐忱

荒留為以年更希

永照肅此不宣

元祿六年癸酉九月 日

對馬州太守拾遺平 義倫

日本國對馬州太守拾遺平 義倫 啓達

朝鮮國東萊奎山兩令公 閣下

秋晚遐想

動靜珍勝方切翹企連年

貴國瀕海漁舡雜然來往

本國竹島竊為漁採以恣私意况又今春漁採彼地者

四拾餘口我

國因幡州牧拘留其漁氓貳人輒馳

啓事狀於

東都由是不俟告報制禁於

貴國今還漁氓詳書

南宮旬頰

轉達茲不觀縷悉附正官橋真重都船主平友貞

口申輔儀別錄庸表遠識

策留為筆草此不宣

元祿六年癸酉九月 日

對馬州太守拾遺平 義倫

右之書簡三通天龍寺南芳院東谷洵長老之書稿二書載有之候故別幅者略之

〃是より前先向使永瀬伝兵衛被差渡、竹嶋之一件ニ付御使者渡海之趣裁判高瀬八右衛門より東萊江申達候所、則都表江及啓聞、十月十日都表より返事到来之由ニ而、東萊より両訳を以裁判方江被申聞候趣并裁判返答左ニ記之

東萊より之口上

一都より昨十日先向之返事申来候意趣者、竹嶋与申所江朝鮮人参候、而人人質ニ御捕被成、東武江被送御案内、長崎江被送渡、對馬守様より朝鮮江参判を以御使者被送渡候由ニ付而先向被差渡候段承届候、竹嶋之儀別而有之嶋ニ候得ハ別條無御座候、若当地ニ而蔚陵嶋与申所ニ候得ハ、古より朝鮮之内ニ而每度往来仕来候、然处朝鮮人を御捕被成参判之御使者を以被送渡候段、不及覚悟事候、其上当年者每度ニ判之御使者を被差渡朝鮮国ニも迷惑存候、依之此度之御使者之儀御理申度之由申来候

一都より先向之返事参候由ニ而段々被仰聞承届候、日本之内竹嶋之儀古来より日本之内ニ其粉無御座候、日本従 公儀許を請、毎歲罷越持仕候付、家居杯も建置候、ケ様ニ日本より支配仕来候所を朝鮮之内ニ而可有之由被仰聞段曾而難落着事候、輕被思召、日本之嶋を朝鮮之内与被仰候而者日本 公儀江相聞如何様ニ可有御座候哉、至而大切存候、此段敏与御了簡被成、今一応都江も御往進候而、障無之御返答被成候様ニ可被仰越候哉、今度之使者之儀、理被仰度与之儀、是以難心得事候、對馬守家来を差越候と乍申 東武より上意を請差渡使者ニ候得者 公儀之使者同前之事候、弥使者之

儀早速差渡候様ニ申遣候間、委細者使者渡海之節書簡ニ可被仰置候

両訳再答

一 竹嶋之儀朝鮮より蔚陵嶋与申所ニ候得ハ何共笑止存候、乍然日本より竹嶋与被仰候ハ蔚陵嶋より別之嶋ニ而御座候哉、哀左様ニ御座候ハ、御使者御渡海被成候而も無別條相済可申候、兎角両国出入無之様ニ仕度候、東萊江罷越宜敷致相談今一応被致注進候様可申入候、其上ニ茂東萊不被致合点候ハ、可仕様も無御座候、早々東萊江參、具申談候間先向被差戻候儀一両日御待被下候様ニ与罷帰

一同十三日東萊より裁判江申来候ハ、此度之参判使各別之儀ニ候故、御使者渡海之上御書簡之趣、都江及啓聞、其節否之御返答可申入候間御使者被差渡候様ニ与之儀也

〃 同月廿二日多田與左衛門一行府内浦出船在之

〃 阿比留惣兵衛并附人仁住弥右衛門御弓之者式人足輕三人與左衛門江相附被差渡也

〃 与左衛門乗り船五拾艇、早船式艘、引船十八艇、小早老艘、水木船老艘、御原船老艘朝鮮人質人式人乗り船として飛船小早老艘被差渡也

○ 同六年十一月朔日多田與左衛門一行渡海即夜絶影嶋江繫船、翌二日館着也

〃 此日両訳入館於裁判方與左衛門持渡之御書簡与取之

〃 裁判高勢八右衛門此節与左衛門江申聞候ハ、当年参判使之渡海在之朝鮮国之費も多候故、此度之御使者之儀も馳走之儀を第一苦勞ニ被存候様子ニ候間、此度者馳走を不被請候方可然与之趣申出、与左衛門も此段同意ニ付、即日裁判より両訳江申達候ハ、当年者参判使打續候故對州より茂此度又々参判使被差渡候段遠慮ニ被存候得共、此一件公儀より被仰出候儀故無扱被差渡候、依之例之通御馳走在之段却而致迷惑候間、此度之儀者御馳走請申間敷候条必御無用ニ候、公用之訳ニ候ハ御返答及延引候而ハ不首尾ニ候故、接慰官早々被差下御返簡之埒さへ明候ハ、早々致帰国事ニ候、此段都表江注進在之候様ニ与使者申候旨達候所、両訳返答ニ御使者快ク請候而、接慰官方へ罷下候ハ、御馳走不申候与申儀無御座候被人御念候段ハ都江可及注進旨返答申聞ル

〃 訳官迎裁判高橋八右衛門帰国ニ付與左衛門方より十一月十九日之日付を以御国江申上候書状之略左ニ記之

〃 接慰官之儀弥相済首譯よりハ朴同知罷下苦被申付候由脇より申来候付、内證為知候由、頃日安同知方より裁判方江手紙を以申越、殊今朝高橋八右衛門宅江訓導下同知參、右之段内意申聞候、兎角御使者之儀者請不申候而不叶事御座候得共請兼申首尾ニ候得ハ、何角与差延シ候所ニ而候得共早速相済候儀者先一段之事ニ存候、乍然竹嶋之儀者元朝鮮之内鬱陵嶋無其粉候處、今度被仰越候趣相心得候与日本ニ加ハ遣候も難仕、又是非朝鮮之内与申儀も有之難成、依之嶋ニツ候故一ツハ鬱陵嶋、老ツハ竹嶋ニ極可申与申様成判事共之口振にて御座候間、接慰官之申分必定其通ニ而可有御座候、捨置候嶋之事ニ候得共鬱陵嶋之儀者必可申出様成勢ニ而御座候、左様之出入ニ成候者、殊外隙取可申哉与致了簡候、就夫裁判爰元江居合不被申段如何存候、兎角判事共能合点不仕候得者接慰官東萊ニも難通事候、判事共江得与申聞候に者裁判方ニ而者心易被申談候故恰合宜御座候、其元ニ而存候より当地之様子見聞仕候而者、御用之節裁判不被差渡候而者不首尾存候間、平田所左衛門儀被差渡候様ニ与存候、接慰官之儀来月十五六日廿日比ニも罷下哉与下同知知を為申由ニ御座候間、年内押詰下り可被申哉、寒氣之

節候間年内下釜無心元存候、早々所左衛門可被差渡候、委細者八右衛門ニ申合候

〃右十二月五日之御返事之略左ニ記

〃今度高瀬八右衛門帰国仕、其元之様子在増承申候、八右衛門佐次乘着船之刻佐次乘ニ而朴同知申候ハ、竹嶋之出入之儀大切存候、先頃朝廷方江首譯共被召寄被申聞候ハ、日本ニ而竹嶋与申嶋ハいつれの方角ニ有之候哉、朝鮮国ニも鬱陵嶋与申嶋有之故、若此嶋之事候得者、随ニ朝鮮之内ニ而與地勝覽ニも載有之候、與地勝覽者日本江渡りたる書ニ候哉与被尋候故、如何ニ茂日本江渡りたる由申候ハ、左候ハ、弥日本茂能御存知之事候故、今度之御使者ハ難請事ニ候、乍然日本ニ而竹嶋与申嶋ハ別之嶋候、別之嶋ニ候ハ無別条事候間、御返答も相替事無之由被申候故、首譯中申談候ハ、日本ニ竹嶋と申候ハ必定鬱陵嶋之儀ニ候へとも、左様朝廷方江申候而者至而大切成事ニ存候故彼方角三嶋有之候、一者鬱陵嶋、一者于山嶋と申候、一者嶋之名不申候、此内いつれニ而も日本ニ而竹嶋与被仰候を竹嶋ニ相極候而、外之嶋を朝鮮国之鬱陵嶋ニ用申候得ハ朝廷方之存分茂立、日本向も御首尾能相濟申事候故、右之通我々内談仕候而返答仕候、朴同知事も今度之儀ニ付致帰参馳走役ニ罷下候故、若朝廷方ニ而右之嶋も候ハ、右之趣を以了簡仕、返答いたし候様ニ委細書状認候而遣申候間、定而首尾能相濟可申候間心安被存候様ニ与咄申候、就夫朴同知儀接慰官より先達而下釜仕管ニ候間、下釜いたし候ハ、被措置候朝鮮人早速朴同知江御渡被下候へ者、右之首尾両人之者江能申合置、重而朝廷方より被尋候刻御違不申候様ニ仕度候、若、茶禮之節杯御渡し被成候而即座ニ而接慰官様子被尋候刻、鬱陵嶋江罷越候杯与申候而者、右之首尾も違、至而大切存候通申候由申聞候、此段佐次乘ニ而申聞候故、其元ニ而貴殿江不申達候由八右衛門申候、依之其元ニ而何茂了簡仕候者、右之通申掠候而首尾能相濟申事ニ候ハ朝鮮国之首尾も能候、日本向も能候故、日本向さへ無別事候ハ、朝鮮国之為にも能様ニ被成被遣度事候得共、左様ニ内證ニ而嶋之名を振替候而茂、鬱陵嶋ハ朝鮮国之内与相極居候ハ、鬱陵嶋江参候分者不苦与存、又々朝鮮人彼嶋江参候而者、至而大切成事候故朝鮮之為ニも必定罷成間敷候、又于山嶋を鬱陵嶋と申成置候而も、于山嶋与申嶋朝鮮国ニ不足仕候ハ、鬱陵嶋を日本江被取候も、于山嶋を被取候も、我国之嶋を他国江被取候段ハいつれにても外聞ハ可為同前事ニ候故、此申分も難落着事候、又者日本ニ而三ツ有之嶋を都而竹嶋と申候哉、日本之様子委不相知候故、三ツ之嶋を都而竹嶋と申候ハ、いつれの嶋之内江参候而も日本より御障被成事候故、猶以右之首尾ニいたし成候而者相違ニ罷成候故、旁難落着事候、ケ様ニ首譯共内談を以朝廷方江申掠候様ニ其身共申成候得とも、畢竟者朝廷方も首譯与同意ニ而、首譯共存寄ニ而朝廷方之前を申掠候分ニいたし、鬱陵嶋を日本之竹嶋ニ相極候者、下ニ而之才覚之様ニいたし成候与察存候、乍然ケ様之儀申掠候様ニ仕置候而者、已来迄大切成事候故鬱陵嶋を日本ニ而竹嶋と申ニいたし候而も壬申之乱已後朝鮮より只今迄捨置、日本より年六度支配被成来候故、鬱陵嶋ニいたし候而も朝鮮国より申分有之間敷事候、土地之變者日本朝鮮斗ニも限申間敷候、已前他国之地ニ而も年久敷此方江属し候而ハ此方之地ニ候、委不及申事候、万一鬱陵嶋を日本ニ而竹嶋と申候ニいたし候而も、不差問候様ニ御心得候而接待之節御挨拶又者御返答之文言杯御吟味可被成候

〃質人爰許逗留之内相尋候節申候ハ、今度参候嶋之名者不存候、今度参候嶋より北東ニ当り大き成嶋有之候、彼地逗留之内漸ニ度見江申候、彼嶋を存たるもの申候ハ、于山



嶋与申候通申聞候、終ニ参りたる事ハ無之候、大方路法一日路余も可有之哉与相見江申候由申候、鬱陵嶋与申嶋之儀者曷而不存候由申候、乍然質人之申分虛実難斗候得共為御心得申進候、其元ニ而能御聞可被成候

〃與地勝覽考申候処、于山嶋鬱陵嶋ハ別之嶋之様ニ見申候、乍然一説ニハ本一嶋与御座候故ニ嶋ニ候哉、一嶋ニ候哉不分明候、芝峰類説杯ニハ世ニ依而名替り、必竟ハ于山嶋鬱陵嶋者一嶋之様ニ相見申候、朝鮮絵図ニハ二嶋ニ図有之候、則写候而進之申候、芝峰類説之文ハ御写被成候様ニ覺候故、與地勝覽之文今度写遣不申候

○ 同六年十二月十日與左衛門一行茶禮設行接慰官并東萊府使被罷出、於太庁対面御書簡渡之勿論竹嶋江罷越候漁民式人太庁之寛上ニ而渡之、相濟而從 東武被仰出候御用之趣論談往復在之也

〃是より前十二月七日接慰官并馳走訳罷下東萊府着之由両訳方より通伺を以申聞ル

〃接慰官弘文館校理洪重夏、馳走譯朴同知并重淑金判事也

〃同月八日馳走訳朴同知、金判事兩人訓導別差同道ニ而正官方へ入来、則朴同知、金判事江此度御用之儀申達、茶禮之日限等申談シ、是又茶禮之節接慰官東萊江御用之儀申談候ニ付、私式相濟候後平座いたし得与可申談候条、此段接慰官江兼而申達置候様朴同知江申渡シ、其上此度馳走断り可申入候、此旨兼而両譯江正官より申達置候条、朴同知ニも其通可相心得旨申渡候所、朴同知返答ニ其段都ニ而も承之候、乍然常々参判使ニ而茂馳走不仕候而不叶事ニ候、況此度者 東武より御越被成候同然之御事ニ候故、弥御馳走不申候而不叶儀ニ御座候付、別而御馳走申候様ニ接慰官江茂被申付候与之儀ニ付、此度者幾重ニも馳走之断可申達旨正官再答申達ル

〃同九日朴同知、金判事正官方江入来、茶禮之節平座之上御用論談之儀、例外之事ニ候へとも正官申分尤ニ候故、弥平座可致旨接慰官被申候由申聞ル

〃同十日茶禮之節正官布衣風折着用、都船主封進侍奉ハ素襖着、伴人十六人召連罷出禮式常之通相濟

〃竹嶋江罷越候漁民二人召連候、警固として横目改濱田源左衛門へ代官樋口太郎兵衛相附罷出候所、馳走訳朴同知、金判事兩人此方警固二人江致挨拶、彼方之者大勢召出し右漁民二人為請取之、則繩掛候躰ニ相見候

〃例之通酌相濟平座之節御用之儀正官より申談候次第左ニ記之、尤接慰官江往復之論并得与見届候ため、此方之通伺役中山加兵衛、諸岡助左衛門并朝鮮詞勤能之町人富井源八中座為致置也

正官より朴同知を以接慰官江申達候口上

〃日本之内竹嶋江近年朝鮮人罷越漁仕候得共、用捨を以重而不参候様ニ与堅申含差返候、然處当春又四十人程参漁仕候故、為証拠人質兩人召捕終始之次第領主より 公儀江案内有之候処、对馬守殿方江被請取、朝鮮国江差返シ重而不参候様急度可申渡旨從公儀被蒙仰候付而、則兩人之者今度被差返候、就夫对馬守殿被申候者、日本之内ニ貴国之者無故参候儀、決而有之間敷儀ニ候処、ケ様之働仕候段卒爾共兎角不被申事ニ候、日本之者貴国之内ニ参漁仕候ハ、御快可有之哉、偏御行規緩キ故与被存候、今度之儀竹嶋之者共日本之掟能守候故、別條無之候、能御了簡被成候へ、下々之儀ニ御座候得ハ、万一日本人組合密ニ商売等仕候族も有之ハ、至而大切千万成事ニ候、初年参候ハ

不存候而之儀も可有之候、今度又致抜船候儀、賊船同前二候へハ、急度御とかめも有之者、朝鮮之御為御難儀成事二而可有之候得共、今度之儀従 公儀御宥免を以無何事被差返候御儀御誠信之御事重ク思召、弥行規敵敷可被仰付候、勿論両国法度為背者共之事二候へハ、急度由事二可被仰付与存候、一々 東武透案内候間被仰付様御返答之様子不宜候ハ、御首尾宜ケル間敷候案御思案可被成候、竹嶋江参候者棟梁も可有之候、夫々科二被仰付候様子迄委細可被仰聞由申達ス

接慰官東萊返答

〴〵被仰聞候趣具ニ承届御尤存候、彼両人者被差返慥請取申候、朝鮮人境を越日本之竹嶋江参候儀にての者とも夫々之科二不被申付候而不叶事二候、竹嶋ニ罷越候も定而別儀有之而之事二無之、魚取ニ為参物与存候、朝鮮ニ蔚陵嶋与申所御座候、是ニ参候とて竹嶋ニ為参ニ而可有御座候、遠所ニ而候へハ蔚陵嶋も不参候様兼而申付置候、向後竹嶋江不参候様、堅被申付ニ而可有御座候与返事被申聞

正官口上

〴〵唯今申達趣御合点被成、尤ニ思召候由被仰聞珍重存候、然共竹嶋へハ魚取ニ為参ニ而可有之杯与被仰聞候段御挨拶之様相聞候、今度之儀ハ下ニ而繕置申事ニ而無之、日本与朝鮮之御挨拶ニ候へハ至而大切成儀能御了簡可被成候、最前申入候通、魚取ニ而無之外之儀ニ而致抜船候ハ、必定御難題可有之事候、又蔚陵嶋江罷越候とて竹嶋ニ越たるものと思召候由被仰聞候、慥成儀者不存候へ共蔚陵嶋之儀其以前者朝鮮より之御支配ニ候得共、壬申之變後より日本ニ属し、竹嶋ハ則蔚陵嶋之由承存候、嶋毛ツをニツニ立一ツハ竹嶋、毛ツは蔚陵嶋ニ被成置、若又此上朝鮮人参候儀も有之候ハ、至而大切千万成事二候、蔚陵嶋江不参候様ニ与兼而之御制法ニ候ハ、日本之竹嶋江重而不参候様堅可被仰付与之御返答ニ而可相濟事二候、自然御返簡などに無益之蔚陵嶋之儀御載被成儀も有之者、御不審有之而、後日朝鮮之御為やかましき御事候、接慰官ニ能御了簡被成御注進被成候へと申達

接慰官東萊返答

〴〵惣而遠土遠嶋江者渡海仕候儀堅キ国之制禁ニ而候へハ、増而貴国之竹嶋へ罷越候儀重罪者ニ御座候、此段都ニ注進仕候ハ、彼者共定而科二被申付、此後竹嶋者不及申蔚陵嶋江茂渡海不仕候様堅被申付ニ而可有之与之返答ニ而相止ル

正官より両訳并馳走譯江申達候口上

〴〵訓導別差朴同知江も兼而申達置候、今度之儀存寄御座候付而御馳走之儀御断申候、茶禮相濟翌日より御馳走之御作法有之由承候、手前ニ持来候を差返シ候なと、有之而ハ見掛も如何敷候間、必御無用被仰付被下候様ニ与同人を以申達ス

訳官返答

〴〵被仰聞候趣承届候、唯今従是可申入与存居候之処御返答ニ罷成候、御着船之刻両判事を以被仰聞其旨、則東萊より注進有之都ニ而承候、然共左様被仰聞候とて御客不仕候与申儀無御座事二候、常々御使者ニ而さへ御馳走不申候而不叶事二候、殊今度者 東武より之御使者同前二候へハ猶以御馳走之儀手前より仕儀ニ而も無之 公儀より之事ニ御座候へハ私として難差置候、弥明日より之初飯も御繕被下候へ、都発足之節、随分御馳走申様ニ与被申付、為其斗ニ罷下候へハ、御断与有之而ハ接慰官殊外迷惑由被申聞

正官口上

〃被仰聞趣承届忝存候、使者二被申付罷渡候上ハ、成程預御馳走度事候得共、最前も申入候通心入御座候而御断申候、為御馳走御下り被成候由被仰聞候へとも、接慰官御下り不被成候而者使者之趣埒明不申候へハ、兎角御下り不被成候而不叶御事、為御馳走斗とハ不被申候、公儀より之御事与被仰聞候上御断之儀慮外ニ而者御座候得共、時に從て御馳走請不申儀日本ニ而毎度有之事ニ候、別而接慰官御迷惑ニ罷成間敷事与存候、何分ニも宜様被仰登被下候へ、明日者早飯弥御断申候之間必持參不申候様被仰付被下候

訳官返答

〃達而御断与之儀何共致迷惑之由ニ而、重而又右之趣段々被申、是非明日之早飯も入候様ニ可申付候  
〃同月十一日両訳入館、都船主方江罷出、早飯持參致候間御受用被下候様ニ与之事ニ候得共、請不申旨正官より申切候故早飯持帰ル也

○ 同六年十二月廿二日與右衛門一行封進宴席設行有之

〃是より前十二月十六日朴同知、金判事入来ニ付、封進宴席来ル十八日可相調旨申懸候所、接慰官東萊差支在之則廿二日ニ相極ル

〃同月廿日朴同知、金判事入来、宴席案内ノ儀業生者前日ニ罷出申入候得共、此度者馳走御断ニ付早飯も被差返候、何とも迷惑ニ存候間何とぞ御受納在之様ニ申入候様ニ与接慰官被申候由申聞候故、兼而申達候通、肅拜所江罷出間敷ことハ無礼ニ候故、肅拜者可仕候、太庁ニ而者御馳走、暉等ハ受ケ申間敷候旨、段々御使者より申達候得とも、両訳色々申候ニ付、太庁ニ而之馳走受用可致旨使者より返答申達

〃同月廿二日封進宴席之節、封進物之儀釜山浦太庁江被罷出、此方より都船主出迎相渡候先例候処、参判之封進物釜山浦被請取候例無之由、訓導別差入館候而申ニ付、慥成證據ハ無之候得共、釜山浦被請取候ニ無其粉候、平田準人封進物相渡候節、釜山浦病氣之由ニ而訓導別差請取之候、不被出管ニ候者断り有間敷事ニ候を断被申候段者慥成事ニ候、断与有之ハ、各別例無之与申儀如何様之事ニ候哉、小送使之封進物ニ而さへ釜山浦被罷出事ニ候へハ、参判使にハ猶以不被出管無之候、坂之下江訓導別差罷帰得与吟味仕候へ、無左者、今日之宴席可差延旨、中山加兵衛、諸岡助左衛門を以申遣候處、両判事返答申越候ハ唯今罷帰候而者、日もたけ其上ケ様之儀前以可相濟儀ニ候を、無調法之仕方与両人共ニ科ニ逢可申候、釜山浦被罷出候儀曾而不存儀ニ御座候、先今日之儀ハ常之通ニ被成宴席、被相濟被下候様ニ与両人達而断申ニ付、左候ハ、任断、封進物両人ニ渡シ宴席可相調候間、急度遂吟味重而参判渡海之節者、釜山浦罷出可被請取与手形仕、一兩日中ニ持參候様ニ与申渡ス

〃午上刻坂之下江相越四度半之拜禮相濟、接慰官より肅拜相濟候説辞申来ル

〃訓導別差より唯今接慰官太庁江被參候儀案内便来ル、追付又別差入来時分能与之儀申来ル

〃太庁江相越禮之次第茶礼之時同前相濟而、曲録ニ掛り膳部出ル、酒七返初期より舞業始ル、相濟而、平座肴物之膳出ル、接慰官東萊江正官人都船主段々ニ盃事有之相濟而、封進侍奉二者一列盃出吞之取替無之

〃曲録二掛り候節、早速接慰官東萊より朴同知を以今日者封進宴席相調致大悦候、此宴席より御馳走之品茂有之候得共、初飯をも御請不被成、其上一昨日朴同知江被仰含候段々具承届候故差控申候、都江委細可致注進候之間、追而都より之差図可有御座候旨被申聞即答申遣候

〃平座候節、朴同知を以向人江申達候者、茶礼之節申談候趣、具二都江御注進被成候由忝存候、乍其上宜御返答早々参候様度々御注進頼存候由申達候处、茶礼之節被仰聞候趣委細致注進候、定而押付返事可参候、乍御退届御待被成候様ニ与被申聞ル

○ 甲戌元禄七年正月十五日接慰官より為使差備官朴同知、金判事、訓導下同知入来御返簡之儀昨日大村金判事持下り候付、写致持参候、且又御使者より馳走之儀及御辞退候故、都表より他国之使者江馳走不仕管無之候条、是非馳走を被請候様ニ可仕旨申来候与之儀ニ付、委細之儀朴同知江及論談也

〃返翰写奥二記之

〃是より先日臘、朴同知、阿比留惣兵衛方江罷出密々ニ咄仕、正官江申聞候様ニ与申候口上左二記之

〃今度與左衛門様就御渡海、某儀流罪被差免御馳走ニ罷下候、此程一両度與左衛門様江御見廻申候得共、判事同心仕候江ハ遠慮仕、某存寄之儀御咄不申上候、此度とても私老人罷出候儀遠慮存候故、兎角某心中難申上候、就夫貴殿江某心底申含候、得と与左衛門様江被仰談候様ニ与存見廻申候

〃私儀朝鮮国江生候得共、唯今着仕候衣類妻子養候事茂

殿様御頼ニ候得者、何事ニ而も御用之節者心を尽御奉公仕与存候、殊今度之御使者之儀大切ニ候得者、某一命捨候共首尾相調候様ニ与奉存候、御使者御内意御遠慮不被成可被仰聞候、朝鮮江者恰合悪敷候共御国之儀者別而宜様ニ仕度存候、ケ様ニ申候儀今度御使者ニ対し申にてハ無御座候、日本人ニ而御座候得者下々迄茂朝鮮人より宜様仕度与存事御座候

〃今度接慰官吏曹佐郎弘文館校理人物宜御座候付、常ニ王之左右ニ被居、諸大名より馳走被仕人ニ而御座候、今度都発足之節も諸大名城之外迄被参にきやか成送りニ而御座候、接慰官之儀朝鮮之名士与申候道理能被致承知、両国誠信之儀被思候付、我々申談候事能合点被仕候故、今度之注進之儀結構ニ被申登候、其節我等接慰官江申入候ハ、今度朝鮮人日本竹嶋江罷越無調法仕候上ハ、朝鮮人科被仰付、重而竹嶋江不罷越様海辺江敵敷被仰付候与御返簡被成候様被仰登御尤存候、其外無用之儀御書面相見江候儀不入事之由申候得者、接慰官尤ニ被存注進結構ニ御座候、乍然都表之首尾如何可有御座候哉、返事不参問者無心元存候、接慰官私都発足之節朝廷被存候茂御書翰ニ応し御返答被申答ニ承候、大名衆之内竹嶋与被仰渡候ハ、朝鮮国鬱陵嶋ニ而候得者、朝鮮国より捨置候共、朝鮮人重而不罷渡候様ニ被仰付候与御返答被成候儀、不及覚悟与申衆多御座候、乍然都之儀接慰官注進次第ニ而可有御座与存候

〃私今度東萊江着仕外之様子承候ハ、竹嶋之儀鬱陵嶋ニ相極候与申人多御座候而何共気毒存候、右竹嶋江渡り候七人之者籠舎被申付被致僉議候得ハ、朝鮮国鬱陵嶋江参候与申候

〃今度向人之者茶礼之節御渡被成候を籠舎被申付、接慰官了簡被<sup>此新とよ</sup>申候ハ日本竹嶋江罷越候

旨、從對馬被仰渡候上ハ、彼者共吟味仕ニ不及候とて其通ニ而被召置候、ケ様之事も接慰官心入能御座候付如斯御座候

〴〵御返翰之節日本江者竹嶋朝鮮二者鬱陵嶋与立置候へハ重而朝鮮新規敵敷申付候上、自然漁民參候共御理御理之字其訴不分明ニ候とも始メ奉罷候通書御之にも可罷成与存候ケ様ニ申候とて鬱陵嶋ニハ別而心有之儀無御座候得共、与地勝覽ニ相見へ候得者、捨置候とて名目残、有之様ニ与朝鮮国之主意ニ而御座候

惣兵衛返答

〴〵貴様御心入之儀感入申候、則正官へも委曲可申談候、然者被仰聞候鬱陵嶋之儀難心得存候、本より竹嶋鬱陵嶋ニ而御座候儀駈とハ對馬ニ茂不被存候得共、如何様竹嶋之儀鬱陵嶋ニ而御座候儀略被承候、左候へハ鬱陵嶋朝鮮之内与被思召候者、重而又下々罷越候儀も可有之哉与大切ニ被存候、唯今使者御渡海之刻嶋之爭論不入事ニ候、鬱陵嶋御捨置、殊漁民迄不參候様被仰付候上ハ、鬱陵嶋之噂不被成候与御書面ニ御書可被成ハ、朝鮮之漁民日本竹嶋江參候由被仰聞驚入候、常々辺海之者ニハ、乍我国遠方ニハ不參様ニ与堅申付置候へ共、下々之儀ニ候得者不調法仕迷惑存候、今度不調法仕候者共を一々罪可申付与御返答被成候者可然存候、少も鬱陵嶋之噂被成候者御使者御請被成間敷与存候、今度御手前御下り之事ニ候へハ、我々不及申諸事御心懸可有御座与存候、郡表并接慰官御心入能御座候者、外之沙汰様々有之候とも其段ハ御手前御了簡可有御座与存候、第一嶋之噂被成候ハ、両国御大事ニ罷成事ニ候、随分御思案可被成候

朴同知口上

〴〵尤千万ニ存候、今度接慰官注進宜候故被仰聞候様御返翰可參哉与存候得者、都之儀難斗存候、殊ニ外之沙汰之様ニ御座候得者無心元存候、今度某罷下候上ハ外様之説御座候共、御用首尾能相調候様ニ与存候、少も私ニ至而誠意無御座候間、朝鮮方之御心遣御無用可被成与、御使者ニ委細可被申談候、大方者思召之通ニ可罷成哉与奉存候、乍然朝鮮国之儀者、乍我国難斗御座候、扱又今日同道仕候金判事私兄弟同前ニ得御意申者ニ而御座候、此御人心立能候故、東萊ニ而も一所ニ罷在両人都之返事如何可有之哉与申事ニ御座候、誠ニ金判事儀者私同前ニ被思召可被下候

〴〵訓導別差江御達被成候節者何事茂不被仰入御返翰早々罷下候へかし、御帰国可被成与被思召候間、弥接慰官東萊江も可被申談候、乍然返翰不宜候而者幾度も可被仰談候間、左様心得内々接慰官東萊江も可被申談与可被仰付候、其外御沙汰御無用ニ御座候

〴〵磯竹嶋鬱陵嶋ニ而御座候儀者、七八拾年前此方より御国江も申渡、御国よりも御返答共御座候、然共唯今朝鮮より噂仕不被申事ニ御座候、此段貴殿心入ニ咄候

惣兵衛返答

〴〵七八拾年以前之事ニ候得ハ両国如何様之被仰結共、御国ニ茂存候者無御座候、殊我々事ニ候へハ終ニ不承事ニ候、左様之事無用之儀候得者御咄御無用之由申候

朴同知口上

〴〵被仰聞候段ハ承居候との儀也

〴〵正月九日接慰官東萊より年始之為使朴同知、金判事入館、先阿比留惣兵衛方へ隱密申候ハ、返簡之儀旧冬押詰下り申候得共氣掛成所有之、其旨接慰官東萊江存寄申達候処、兩人能被致合点都江被致注進候、定而十七八日比ハ可致到来候、此儀殊外致隱密、此方ニ而も接慰官東萊より外誰も存不申候、必御沙汰無之様正官斗ニ内證御物語被成候へ、返

翰不直様子唯今申ハ如何ニ候、首尾能相濟候以後何角も不殘咄可申由、表向ハ何之噂も無之返簡早々下り候様、肝煎候へと斗御挨拶被成可然与内意申候

〴〵同十五日御返翰之写入来候節正官より差倆官江申達候評論左ニ記之

正官口上

〴〵今日持参候返翰之写、乍早々令披見候、申断ニ而ハ無之候得共心易語候付申聞候、参判之書ニ蔚陵嶋之儀書入有之候ハ、茶礼之節接慰官江我等口答ニ被申候通之趣ニ而候、其節も接慰官江再答申、皆共ニも内々申聞候様返翰ニ朝鮮之辺土之者、境を越日本竹嶋ニ参候由、具被仰聞驚入候、向後堅不参候様ニ新規敷敷可申付与之御返答ニ而、成程相聞へ相濟事ニ候、蔚陵嶋之儀御書入不入差出物ニ而無之候哉、如何様之心ニ而書頭したが

り候哉

朴同知返書

被仰聞候趣如何ニ茂御尤存候、乍去此返翰之儀うかと筆之先ニ而者無御座候、朝廷以下諸役諸大名都ニ各有者ハ不殘召集詮議一重ニ重之事ニ而ハ無御座候、大勢之心くニ御座候ハハ様々之旨趣ニ而御座候得共、少も及異儀心御座候而者、事大事ニ罷成段合点ニ而候故、事無事ニ罷成候様ニ与之相談ニ而御座候、然共蔚陵嶋之儀者、朝鮮之内ニ無其粉書物数多有之、其上朝鮮之地与申儀國中ニ無隙、土民葦迄も存居、殊竹嶋江参候者共皆蔚陵嶋江参候与申候ハ、相心得候与斗被認候儀、難儀首尾ニ而御座候、仰之通出過物之様ニ相聞へ候得共、右之通ニ御座候ハ、蔚陵嶋与申儀を書頭し名ゆえ斗ハ朝鮮ニ残シ、土地ハ日本ニ相附候仕方ニ而御座候、土地を御請被成候ハ思召尽之御事ニ而候、此上ニ名迄御取被成何之益御座候哉、返翰ニ雖弊邦之蔚陵嶋亦以遠遠之故切不許任意往来况其外乎与有之儀、能御了簡被成御合点可被成候、蔚陵嶋方角海辺ニハ假初にも船を不浮候様、堅制禁を立被申事ニ候ハ、千年過候而も此方之者参候事ニ而も無御座無別條事ニ候、右之通相話相極候而之事ニ候ハ、万ニ蔚陵嶋など除候様ニなとく有之儀も候而ハ義理も無之物ニ而候故、仮令亡国ニ罷成候共除被申間敷与存候、其上名迄不殘首尾ニ候ハ、国之中を他国江相渡申儀ニ候故、唐江も不申候ハ不罷成候、此段御聞分被成候様ニ与申聞

正官口上

〴〵申聞候趣一々聞へたる事ニ候、土地之儀者其時節ニより如何様にも変可有之事ニ候、釜山浦ハ古日本ニ而候与慥成書面ニ有之候由聞及候、古左様ニ而候間、此方江被返候へと申候ハ、返し可被申哉、又蔚陵嶋之儀壬申之變後日本ニ属し候与之儀朝鮮之書物などニハ無之候哉、朝鮮之内与書物ニ有之候間唯今も其通与申儀何共不聞候由申達

朴同知口上

〴〵被仰聞候趣御尤ニ者存候得共、又左様ニ而無御座候、壬申之變後日本ニ属し申候与之儀いかにも朝鮮之書物ニ御座候、然共数多之書物御座候而論シ尽シ不申候、壬申之乱後日本ニ属し申候ハ蔚陵嶋斗ニ而無御座、大方日本之御手ニ入申候得共、其儀不殘以前之通罷成候由申聞

正官口上

〴〵申聞候趣會而合点不参候、万ニ望儀有之而も任望間敷与之心入ニ而申様ニ相聞へ候、兼而申候様ニ今度之儀者、朴同知我等相談ニ而宜繕置可申与申様成儀ニ而無之、日本与朝鮮之御挨拶ニ候、書簡者不及申、何事ニよらす一々 東武江案内有之事ニ候得ハ、ケ様

之大事無之候、得与吟味候而、望も有之ハ追而可申達候、對州与朝鮮之儀ハ各別之事ニ候ヘハ、幾重ニも御相談有之而、宜様御返翰御認無事をも調候儀、必竟朝鮮之御為ニ候事調候儀、今度朴同知働此時節ニ候、早速返答難成候間左様心得候ヘ、右ニも申候通心得候与斗之御返答ニ而日本朝鮮相除儀無之、蔚陵嶋江不參様兼而より之制法ニ而此上又禁制被致事ニ候ハ、弥之儀朝鮮斗ニ而名目被立置可相濟事ニ候、蔚陵嶋書入ニ不及參議之御返翰之通ニ而結構成事之由申達

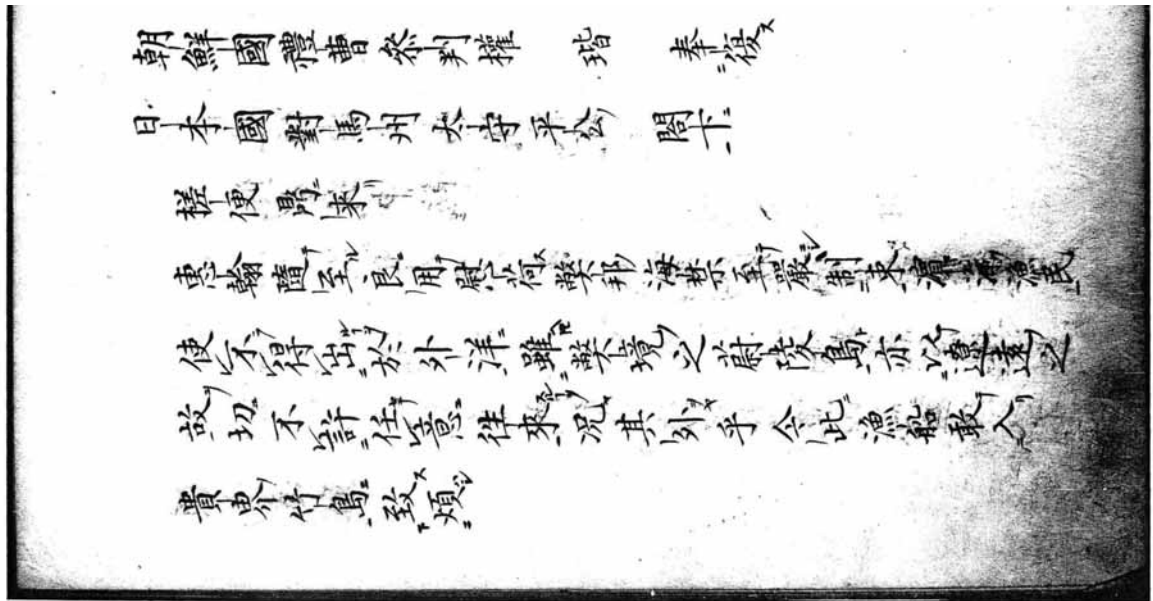
朴同知返答

〴〵仰之通いかにも御尤ニ而ハ御座候得共、竹嶋ニ渡海致帰国候得共召集被致詮議候ヘハ、志人も不殘皆蔚陵嶋ニ參候与申候故、心得候与斗ハ中々難成事ニ候、是より事敷相談初り大勢之役人諸大名思々之存寄申分ニ而、漸右之通責而名目斗を殘候談合ニ相極返翰出来申候之由申聞

正官口上

〴〵相極候相談難交之由、具ニ申聞候趣至而大切千万存候、右ニ茂申候様朴同知我等兩人之申分ニ而無之、日本朝鮮之御挨拶ニ而候ヘハ、下ニ而兎角与申儀ニ而無之候、此段能合点之前ニ而、殊朴同知儀ハ日本向諸事巧者ニ而候得共、乍其上能了簡候ヘ何角も不入必竟朝鮮之為ニ候ヘハ、事之宜ニ不被隨候而不吐事ニ候、存寄儀も有之而重而申達候ハ、宜埒明候様働候ヘ否之儀追而可申達旨申聞

写来候返翰左記之



領送遠勤

書論隣好之誼實所欣感海氓獵魚以為生理或不  
無遇風漂轉之患而至於越境深入雜然漁採法當  
痛懲今將犯人等依律科罪此後沿海等處嚴立

科條各別申飭

俟既領謝薄物備緘統惟

照亮不宣

癸酉年十月 日

禮曹參判權 階

朝鮮國禮曹參議姜 銑 奉復

日本國對馬州太守平公 閣下

貴价遠來獲承

筆緘備悉

動靜欣慰交至沿海漁民不顧邦禁越犯

貴境事極驚駭遠勤

領送誠極感荷違禁之罪當有其律而沿海等處

亦當各別申飭俾無日後之弊非品聊表遠忱

玆既多謝



厚眷

肅此不宣

癸酉年十二月 日

禮曹叅議姜 銑

朝鮮國東萊府使成 瓘 奉復

日本國對馬州太守平公 閣下

帛价

專札副以

玆既感慰交至漁民一欵既已轉答

朝廷相<sup>在</sup>南宮覆帖簿儀幸<sup>與</sup>

亮留不宣

甲戌年正月 日

東萊府使成 瓘

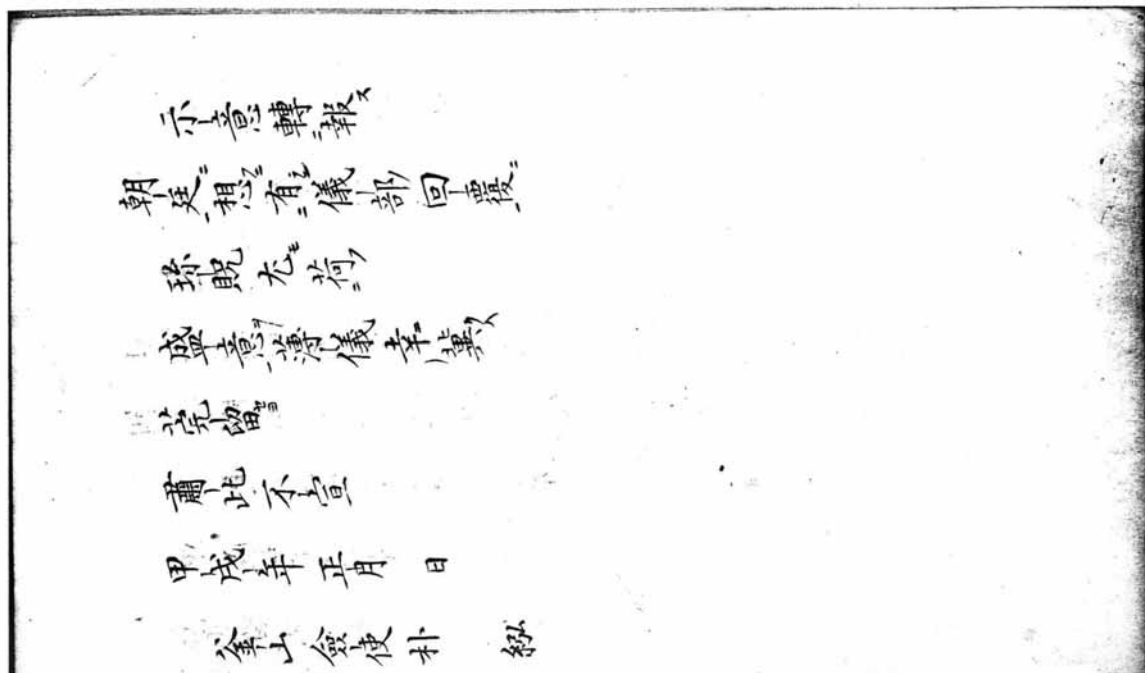
朝鮮國奎山令使朴 紱 奉復

日本國對馬州太守平公 閣下

遠承

帛札備卷

興居良用慰況



右書簡三通天龍寺南芳院東谷洵長老之書簡二書載有之候故別幅者略之

- 同七年正月御返翰写到来二付、與左衛門方より阿比留惣兵衛江返翰之次第委細申合御返翰写御国江差上之
- 〳 正月十五日与左衛門方より御国御家老平田隼人、杉村采女、樋口左衛門、樋口孫左衛門、平田惣右衛門方江差越候書状之略
- 〳 私持渡之返翰到来之由二而写仕、今日阿比留惣兵衛所江朴同知致持参候、茶礼之節接慰宜返答被申候通蔚陵嶋之儀書込有之候、朴同知申候者、此御返翰其身十分之働二而如此結構二認参候、捨置候嶋二無其粉候得共、蔚陵嶋与申名目を残し候迄二而、重而渡海仕候儀者決而無之事候、尤嶋之論を仕二而も無之候、都二ハ口々有之候故此上二ハ若好有之共直シ候儀難仕候、何角与申立候而者嶋之論之様二も可罷成候哉、左様之申請罷成候而者朝鮮も義理二而候故、仮令亡国二罷成候共難請事候、蔚陵嶋江以来とても参候儀決而無之事二候得者、何之障も無之候、及異儀候而者両國不通罷成程之儀能合点仕居、何とそ首尾直様二与朴同知働此迄二而候間、請取候様内意申様二与惣兵衛迄申聞候、其後私所江召寄せ写披見申候、今度之御返翰之儀者大切成事候故、早速二其返答難申候得者吟味候而、追而可申達由申渡置候、采女殿御帰国之節申談候様向後蔚陵嶋江不遺首尾二相極候得ハ、御好之通同前之様成事二御座候故、此御返翰之通二而も御請取可被成候哉、朴同知申分心入之趣委細難書述候付而、折節嶋二乗浮出船御座候故、惣兵衛差渡シ参判参議より返翰之写二通差上之候、御返答早速以飛船可被差越候、御返事到来迄者返答不申差延し置可申候、御返翰請取申首尾二候者、惣兵衛被差渡候二及申間敷候、万一御望も御座候者裁判并惣兵衛儀早々可被差渡候
- 〳 返翰金判事持下申候、此便二堤<sup>堤</sup>朝廷被申越候ハ、馳走請不申候段古より無之事候、今度者江戸より之御使者同前之事二候ハ猶以御馳走不申候而不叶事二候、弥請候様二

具申参候間、是非請候返事仕候様ニ与接慰官東萊より被申越候、兼而申候様ニ心入御座候而御断申候、朝廷方より被仰越候与之儀者重量忝存候へ共、弥御断申候由返答申遣候

〽正月廿三日差働官兩人入来、接慰官より之口上二度々申入候通、御馳走之儀都より每度申参候、他国之御使者ニ御馳走不申候与申儀古来より無之事候、殊更今度者常々御使者にても無之 東武より御越御同前之事ニ候へハ、猶以別而御馳走不申候而不叶儀ニ御座候、御馳走も自分之儀ニ而無御座、朝廷より之事ニ御座候へハ、為其斗ニ罷下たる儀ニ御座候処御承引不被成段別而迷惑仕候、是非受用候様違而可申入旨東萊同前被申候由申聞ル

#### 正官返答

入御念被仰聞候趣致承知御心入忝存候、乍然兼而申入候様、今度之儀存入有之付度々御言葉を返し候、日本之中ニ而も有之事ニ候、其時之首尾ニより使者心得ニより馳走断申請不申儀毎度有之事ニ候、朝鮮にも可為御同前候、都江注進之儀宜被仰登被下候様ニ与朴同知申渡ス

○ 同七年二月十五日与左衛門御返翰請取之意趣ハ、朝鮮海辺之制禁至而嚴重なる儀ニ而、海辺之漁民外洋江出候事を許シ不申、我国之鬱陵嶋さへ遠方之事故心次第ニ罷越不申様ニ仕候へハ、況其外二者猶以遣し不申候、然所ニ此度我国之漁船貴国之竹嶋江罷越候哉ニ而被送返御隣好之段誠致感激候、海辺之者共漁を以生業与いたし候故、悪風ニ遭イ漂流之患可有之事ニ候得共、境を越シ入交り漁掠仕候段、於法式戒メ可申儀ニ御座候故、右之者其法律之通罪科ニ申付候、此以後海辺之所々江各別ニ敵數申付候与之儀礼曹参判参議東萊釜山より申来ル

〽返簡前二書載在之故略之

〽御返翰請取候規式與左衛門記録ニ不相見候故不記之

〽是より前與左衛門方より阿比留惣兵衛を以御返翰写御国江差上置候故、惣兵衛儀飛船を以渡海被仰付、二月八日館着委細之御返書到来則左ニ記之

〽正月廿六日御老中より返書之略左ニ記之

〽持渡之返翰到来之由ニ而写シ朴同知持参惣兵衛ニ申聞候趣具ニ御承知候

右返簡之書面令御披見候処、竹嶋与鬱陵嶋者両島有之様相聞へ候、此方ニ而了簡仕候而ハ大形竹嶋与鬱陵嶋ハ尙嶋にて可有之哉与被存候処、其段御存不被成候躰ニ而此返簡被差上候而者以来大切成事ニ候、殊ニハ此返簡之内ニ鬱陵嶋之儀沙汰有之筈ニ無之候故出過物ニ候間、定而御吟味可有之候、若御吟味無之ととも此方より若一嶋にても可有之哉与御推量被成候旨、不被仰上候而者不叶事ニ候、其節ニ至而竹嶋与申候ハ鬱陵嶋之事ニ候年来日本之御支配ニ候間、彼嶋江朝鮮より渡海不仕候様ニ与、重而被仰渡候間、其節之返答ニより大事ニ及候歟、又ハ左候ハ、日本江進候与被申候も如何敷候、兎角ニ付重而日本より被仰遣首尾ニ罷成候間ハ、朝鮮国之為不宜事ニ候間、不及申事ニ候得共、此段能々思案候而返翰被差渡候様ニ可被仰談候、爰元ニ而存候ハ参議之返翰之通ニ鬱陵嶋之沙汰無之御紙面之通得其意候、已来之儀堅申付候与被認候而、國中并他国江聞江之為斗候ハ、日本竹嶋并鬱陵嶋江も決而渡海不仕候様ニ与、朝鮮國中江堅掟被仕候ハ、

已来迄出入有之間敷事二候、此上ニも若下々背申候段者不及力事二候故、其段ハ唯今よりハ不論事二候、兎角蔚陵嶋之儀書面ニ有之而ハ、此方より御たまり被成候而返簡被差上候儀不罷成候故、有之俟ニ委細可被仰上候、左候ハ、疑敷俟ニ而被差置候様与ハ、公儀より被仰出間敷与致推量候、右申候通朝鮮国之為ニ外聞悪敷首尾ニ罷成候歟、又者大事ニ及申候歟、両様之内ニ而可有之候、此段彼方にも分別被極候上ニ而返答可被認トハ存候へ共、両国通用之御役御勤被成候上ハ、彼国ニも首尾能候へかし与承存事二候へハ、此方ニ存寄候儀宜不申達候而ハ、如何ニ候間此旨接慰官、東萊、釜山、朴同知江も能々可被申談候、此返簡之俟被差出候分者、何より安キ事二候得共右之御書簡故、先此段申越候、曾而此方より直シ申様ニ御頼被成ニ而ハ無之候、日本朝鮮之御挨拶ニ候故、紙面如何様ニ候而茂御取次一篇之事ニ候故、此方御首尾悪敷与申事ハ無之候得者、誠信を以被仰通候上ハ朝鮮国外聞悪敷様罷成候而も、又ハ大事ニ罷成候而も笑止ニ被思召候故、同者双方宜様ニ御座候候へかし与被思召候付思召寄被仰越候迄ニ候、此段委細ニ被申届、幾重ニも跡先思案被仕様ニ可申談候、其上ニも右之返簡被請取候様彼方より申候ハ、請取帰国可被仕候

〃貴殿馳走之儀前以被申達置候首尾故又々斟酌被仕候由承届候、乍然彼方より申候通、今度者江戸表より之御使者同前之事ニ候故、公議江対し候而之気味も有之候、已来迄之例ニも罷成候間彼方より被申候通受納被仕可然存候

〃竹嶋与申候ハ朝鮮国之蔚陵嶋之事ニ而も可有之候との儀此方ニ而之推量ニ而候得共、公議ニ者慥ニ蔚陵嶋之事与御存之上ニ而為被仰出事ニ而も御座候哉、其段難斗事ニ候、若御存之上ニ而為被仰出事ニ候得者、此御書簡ニ而ハ弥、公議向大切ニ存候故、朝鮮国之為与存此方存寄之趣委細惣兵衛口上ニ申含候、脇々より取持何角与申候儀も入不申、両國之好之事ニ候故、下々ニ而繕置申事ニ而無之候、殿様御為なと、申すてにはの事ニ而無之候間、譯官共被申談候節も其心得ニ而被申談候儀肝要ニ存候、朝鮮国江之奉公振ニ者可罷成候、此方江御奉公振ニ仕候なと、存候而者了簡達ニ候間其儀能々可被申談候

〃二月九日朴同知召寄申渡候正官口上

〃先頃持参之返簡之写我等了簡斗ニ而請取候儀大切存候付、国元江為相談阿比留惣兵衛差越候之處、昨夜惣兵衛帰国返答申来候ハ、此返翰之通ニ而者、竹嶋与蔚陵嶋与両島ニ相聞へ候、然与ハ不相知候得共、蔚陵嶋与竹嶋者大形一嶋ニ而可有之候、然所其段無御存知躰ニ而此返翰被差上候儀大切成事ニ候、定而御吟味も可有之候、若左様無之共此方より一嶋ニ候而茂可有之哉与御推量被成旨不被仰上候而不叶事ニ候、其節ニ至而竹嶋与申候ハ蔚陵嶋ニ候間、彼嶋江朝鮮より渡海不仕候様ニ与重而被仰渡候首尾ニ至而ハ、其節朝鮮之返答ニより大事ニ及候歟、又ハ左候ハ、日本ニ進候与有之茂如何敷候、兎角ニ付重而日本より被仰遣候首尾ニ成候而ハ朝鮮之為不宜事ニ候、返簡にハ相心得候与斗有之候へハ日本朝鮮相障儀無之候、他国之聞へ朝鮮ニ名を殘シ候為斗ニ候ハ、日本竹嶋并蔚陵嶋江も決而渡海不仕候様ニ与朝鮮國中江堅挺有之候へハ、名も残り以来迄出入有之間敷候、兎角蔚陵嶋之儀書面ニ有之上ハ此方より其沙汰不被成返翰被差上候儀不罷越候故、有之俟具ニ可被仰上候、左候ハ、疑敷俟ニ而被差置候様ニトハ、公儀より被仰出間敷候、朝鮮国之為ニ外聞悪敷首尾ニ罷成候か、又ハ大事ニ及候か両様之内ニ而可有之候、御国之儀両国通用之御役之上ハ、朝鮮にも首尾能候へかし与被思召御事ニ候、此返簡之俟被差出候儀者何より安キ事ニ候得共、右之通故一旦不被仰越候段不誠信ニ被思召

候、乍然此方より書面御直し候様ニ与御頼被成ニ而ハ無之候、是者日本与朝鮮与之御挨拶ニ候故、紙面如何様ニ有之而も御取次一篇之事ニ候故、御国之首尾愚敷キ之、能キ之与、申儀者無之候得共誠信を以被仰通候上ハ、朝鮮国外聞愚敷様ニ罷成候而も、又ハ大事ニ罷成候而も、笑止ニ被思召候故、願共双方宜様被成度候、竹嶋ハ朝鮮国之蔚陵嶋与公儀二者隨御存知之上ニ而為被仰出候事ニ候得者、此返簡ニ而者弥 公儀向大切成事故、朝鮮之為を被思召候段ニ御了簡被仰越思召寄之通ニ相濟候時  
殿様御為宜杯与申儀毛頭無之、皆朝鮮之為ニ候、下々ニ而繼置候事ニ而無之候間、得与致合点接慰官江申達、參議より之御返簡之通ニ候ハ無其上候、右申儀様書面是非御直し候之様ニ与御願ニ而ハ、曾而無之候、此段早々都江御注進被成否之御返答次第返翰請取可致歸国候、此旨委細申達候様ニ与申渡ス

朴同知返答

ハ被仰聞候趣一々承届候、朴同知心底不殘物語可仕候、朴同知儀朝鮮之土地ニ致出生候得者、朝鮮人と可思召候、全左様ニ而無御座候、数年御国之奉得御恩候上、御存知之通之私儀ニ御座候得共、御用をも可相達与被思召候哉、三百貫目之請負御座候得共宜様被遊被下、此御厚恩者御国衆も是程之儀有御座間敷候、如何様之忠節仕候とて朝鮮より八十貫ももらひ可申哉、偏御厚恩難有御奉公ニ罷成儀ニ而御座候ハ、如何様之事ニ而もと朝帯夫色、心懸罷在候、朝鮮向恰合宜事毛頭望無御座、都表にて朴同知者能判事と沙汰ニ合申儀も曾而同心ニ無御座候、位なと望心底ニ御座候ハ疾知事ニも罷成儀度々御座候共、私祖父ハ日本朝鮮之御取次首尾能相勤候とて同知ニ罷成候、私儀若何之働茂不仕候之義、同知ニ罷成候ハ自分ニ者過たる位与此上望無御座候、御厚恩之日本人菅人朝鮮江被差置候御同前ニ而御座候、此存人ニ而御座候付、朝鮮向之儀何ぞ隠密仕候而之繼候而者杯与申儀ニ而毛頭無御座候、何角を最初より咄可仕候間得与御聞被成候ハ、今度竹嶋江參候者共日本より唯被追返御書簡斗被遣候ハ、成程被仰聞候通心得候与斗短ク不認候而不叶儀、何与蔚陵嶋を書込可申哉、此旨書込被申候主意ハ竹嶋江參候者共ハ慶尚道之囚蔚山之者ニ而、乗組九人ニ而御座候、式人ハ日本ニ而被捕殘七人ハ無恙致歸国候、從之被捕候者之親女房子共方より蔚山之地頭江誰々九人乗組漁ニ罷出、七人ハ罷歸候ハ共我々男親ハ不罷歸候、御詮儀被成被下候様ニ候与妻子共訴状差出、則七人之者召寄被逐吟味候ハ、為漁蔚陵嶋江參候処ニ居合日本人式人捕、伯耆国江召連參候付、無力我々斗罷歸候由申二付、日本人參候所江ハ如何様之儀ニ而參候哉、蔚陵嶋ニ而者有之間敷与被致吟味候ハ、曾而他所ニ而者無之以前より參候由申二付、其旨慶尚道之巡察使江案内被申候ハ、巡察使より被致注進候之處、様子難落着候間、得与逐吟味様子相極候而、可申登由、都より返答有之ニ付而、右七人之者巡察使方江召寄詮儀被仕候処、最前為申ニ無相違如何ニも蔚陵嶋江參候、彼所昔屋敷如何様ニ候而猫竹杯大分ニ而、鮑魚沢山ニ有之なと、様子委細申候趣、又注進返し而蔚陵嶋江參候ニ相極候、依之都之相談ニハ祖宗より者山河無故他国江相渡候儀外聞旁無殘所不及是非次第候、死而後所在之別如何可申哉誠信を以相交儀ニ候ハ、真直ニ申遣日本ニ御合点不被成儀有之間敷候、唯有躰ニ竹嶋江者不參候、我国之蔚陵嶋江參候与之返翰可然ニ相談相濟居候、然処朴同知今度流罪差免參判御馳走ニ可被差下旨飛脚參、配所発足霜月十七日致上京候、右之相談承驚入朝廷方判書之内ニも僉配有之方御座候付、密ニ宿々ニ參今度之御相談大切千万ニ存候有之候被仰遣、日本御誠信を以被差返候御首尾ニ候ハ其上無御座候、以前者如何様ニ

も候へ年来御支配被成来、日本之内ニ罷成候嶋を朝鮮之内とハ杯与御断被成首尾ニ罷成候へハ、事之破ニ罷成候、其節ニ至而無事様ニ御濟被成候時者、朝鮮国中之存入唐江之間へ如何可有御座候哉、能御思案被成候へ、鬱陵嶋之儀朝鮮之内ニ無其粉、国図ニも有之事唐ニも相知居候得共、壬申之變後より彼方ニ居住之者共も皆御引取御構不被成候得共、彼嶋御捨為被成御同前ニ候、御捨被成候上ハ日本より成共又者唐より成共御取被成間敷物ニ而無御座候、此方之嶋を無故日本にとられ候与申儀ニ而者無御座御捨被成候嶋を日本ニ御ひろひ被成ニ而候様成事ニ候へハ、別而朝鮮之外聞不罷成事ニ候由色々内證申達、其上接慰官江勢申越候へ、爰元之勢イ右之通被思召入之衆數多ニ而御座候得者、御手前様ニ茂難被仰立事ニ候へ共、唯今当分都首尾宜御座候而も事之破ニ罷成候而者、御手前様御働悪敷様罷成事ニ候、必竟又朝鮮之御為不被思召同前ニ候、今一応御相談可有之事与委細申入候へハ、殊外能被致合点、霜月十九日都発足之害を廿二日ニ被相延、朝廷方判書方宿々江自力被廻接慰官存寄之様ニ申込候、朝廷之内卷人判書之内ニ茂一兩人能合点之衆有之而落着被申候、朴同知ハ如何存候哉与被尋候处、同知心入者不存候由被答候付、則呼ニ参候故罷出候へハ順々被尋候付、存分之通不殘申達候へハ能合点被申候而重而又相談有之候、不合点之衆數多有之、鬱陵嶋程之嶋を何之送返而日本より御争重而何事を可被仰越哉、日本ニかたつけ候儀者無是非了簡ニ候、曾而罷成間敷儀与口々ニ被申評議相済可申候处、接慰官直奏被申 帝王能御合点被遊只今之相談宜ケル間敷与之勅命ニ而、漸土地者日本ニ渡シ、名斗朝鮮ニ殘候をしほあいニ仕無事破様ニ与相談相極事済申候、先日茂申候様ニ鬱陵嶋方角之海辺江ハ魚船浮不申候様ニ与堅制禁被立事ニ候へハ、千年迄候而も別條無之事ニ候、若又以後竹嶋へ朝鮮人漂流仕間敷物ニ而無之候間、漂流ニ相極候ハバ常之通御使者を以被差渡ニ而可有御座候、堅申付候上なから下々之儀ニ御座候へハ万一至ニ来、抜船仕漁など仕族も御座候者、何時成共御捕被差渡候へ、急度首をはね可掛御目候、此段能證拠にて候、右之通相談漸ニ相済候得者、合点悪敷衆者于今茂心外返翰差下不埒成事ニ候、相談済居候处、接慰官不入儀を取持候而なと、毎度尊有之由、五日ニ一度宛都より定候而飛脚参候、其度ニ様子之儀内證申来候、御帰国以後御聞被成候へ接慰官帰京被仕候ハバ必定首尾宜ケル間敷候、接慰官ハ能合点仕被居両国無事故相済候儀、朝鮮江之働ニ而候へハ此上不首尾ニ而、縦百姓ニ成候共不苦与之内存ニ而御座候、就夫朴同知致了簡候者唯今被仰聞候趣一々御尤成御事ニ而者御座候得共、都之勢イ右之通ニ御座候故致注進候ハ、又相談變候而如何様ニか案文変可申も難斗、至而大切存候御返翰御請取被成候而之上ニ候へハ、如何様之儀為申登候而茂不苦事ニ候得共御請取不被成内注進之儀必變可有之哉与、殊外氣遣仕候間、私咄之様子能御了簡被成、此候ニ而返翰御請取被成、江戸江被差上此趣ニ而宜被思召上候へハ其上も無御座候、若又右被仰聞候通重而又被仰越御首尾ニ候ハ、朝鮮国ニも又了簡御座候而事大事ニ不及仕様如何程も有之事ニ候、重而御大志被差渡御事ニ候ハ、終始之様子朴同知能存候間、朴同知罷下候様ニ与定而可被申付候、唯今不合点之衆も事破候儀教寄ニ而ハ無御座候、至其時者、兎角無事を調不申候而者不叶儀ニ御座候、重而御使者を以唯今之竹嶋者右之鬱陵嶋ニ而日本之内ニ成候而、日本より御支配被成来候由被仰越候者、全左様ニ而御座候、鬱陵嶋者是を申候与其時之見合ニ何レ成とも小嶋ニ鬱陵嶋之名を付、絵図を以懸御目候へハ埒明無事を調申候、朝鮮之國絵図ニ慥ニ有之事ニ候へハ、名も不殘候様仕候儀者唐之聞江も恐申候、此段毛頭繕候而申儀ニ無御座、心底不殘申候間御了簡

被成候様ニ与申聞ル

正官口上

〃申聞候趣尤之様ニ相聞へ候得共、国より差函之事ニ候へハ朴同知申分尤ニ候間返簡可請取共難申候、右申通書簡御直シ被下候へ、爰をケ様ニ被成候へなと、申儀ニ候ハ、左も可有之候へ共否之御返答承迄之注進如何与之儀難心得候、朝鮮之為を被存被申越候趣を注進無之、其候ニ而差置候儀難成候、注進候ハ、又相談之違返翰之變も可有之哉与、氣遣候由申候儀是又難落着候、いかに不合点之衆たりとも朝鮮亡国之下地振候様成儀無之苦候、殊書簡請取候へハ其跡二者如何様之儀も注進成能候由申聞候段弥難心得候、国より誠信之儀注進有之而、若都ニ而茂尤ニ思召、返簡御直シ被成儀有之間敷物ニ而無之候ニ返簡使者請取候与有之ハ、縦直り候首尾ニ而も御直シ難成儀可有之候、早々注進有之而唯今之返簡弥請取候様ニ与、都より御返答有之ハいかにも請取、翌日ニも可致帰国候間、急度御注進候而御返答被仰聞候様、接慰官江可申達候、若御合占難被成儀も候ハ、近日出会可仕旨申渡

朴同知口上

〃被仰聞候趣具承候其旨可申達候、如何様接慰官存寄可有御座候間返答之趣明日致入館可申入由ニ而罷帰

〃二月十日朴同知入来接慰官より之返答、一昨夜御到来御座候而御国より思召寄之趣被仰越具致承知候、唯今之返簡之趣ニ而江戸江被差上候者御不審も有之而、重而又被仰越首尾ニ罷成候而者、大切ニ被思召候与之儀、御尤至極御心入朝鮮為不淺忝儀ニ而御座候、然共鬱陵嶋之儀書込被申候儀、無抛子細有之吟味相詰候而之儀ニ御座候、御誠信之趣早速都江注進可仕儀ニ御座候へ共、不書込候而不叶子細有之付、此上書面直り御儀者決而無之事ニ候、又返簡御請取不被成内、致注進候而者必定不宜存寄有之候、如何様之儀有之共書簡直り候与申儀無御座候所ニ、致注進不宜儀有之上ハ御了簡被成、唯返翰御請取被成候様ニ与存候、返簡御請取被成候而者、何角具ニ都江為申登十四五日ニハ返事参事ニ候間、御帰国前都之心入返答隨可申入候、鬱陵嶋を書込申儀者日本ニも何事にもか、ハリ為申儀ニ而無之、唯朝鮮之為斗ニ而候、重而御使者被差渡候儀も、都ニ能合点ニ而前以積り之内ニ而御座候、御使者又々被差渡候とて大事にも不及、朝鮮外間ニも不罷成様極而了簡御座候間、此旨御心易思召御氣遣不被成御国江も可被仰上候、此段者接慰官東萊請合申候、重而被仰越とて詰構仕候心入者、唯今之返簡ニ而相知申事ニ候、能御了簡被成候へ、御国より被仰越候御誠信之儀都江致注進候而、彼方より否之返答之趣申入候へハ、接慰官者取次一篇ニ而、是程糙成儀者無御座候得共、致注進候而者必定不宜存寄有之付、申入候御手前様私儀者、内證同前之儀ニ御座候、幾重ニ茂御相談不申候而不叶儀ニ御座候、重而御大志被差渡候時之首尾必御氣遣被成間敷候、返簡御請取被成候様ニ与被申候、接慰官も早速東萊之居所江被参、相談ニ而兩人同前ニ返答被申候由朴同知申聞ル

正官返答

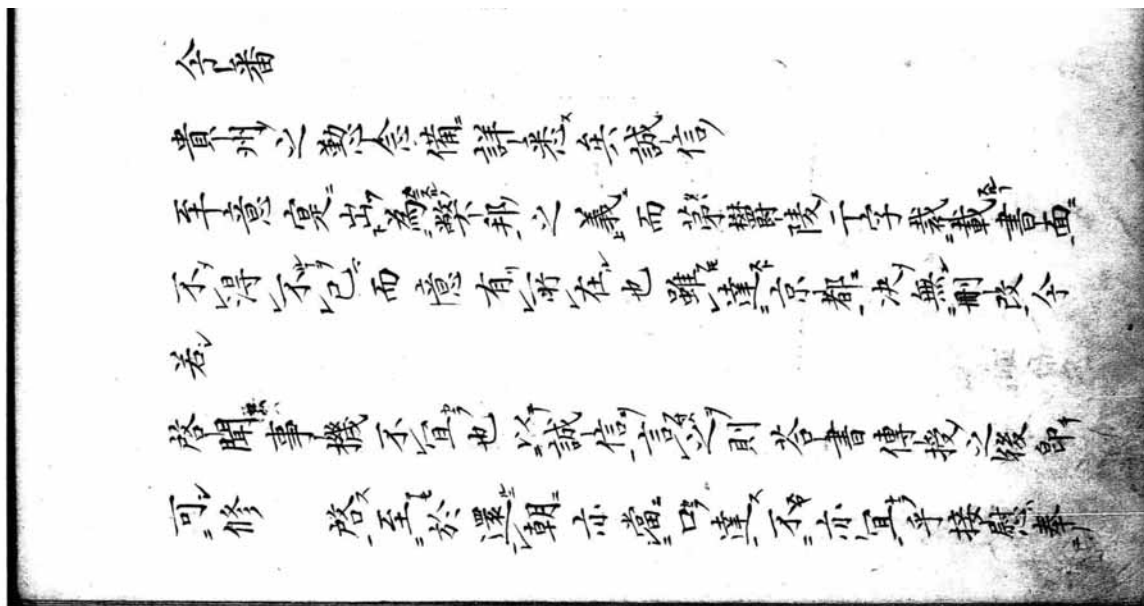
〃被仰聞候趣得其意、御尤ニハ存候得共、注進被成不宜思召人有之与之儀難心得事ニ候、御返簡之内爰を御除、是を御直シ杯与、申儀ニ候者左様可有之事ニ候を、国元より之了簡一篇を被仰登候儀別而可障事ニハ不存候、返翰請取候而之以後にハ、具ニ御注進被成都表より之御返答御心入帰国前ニハ可被仰聞由、是又難落着事ニ候、一旦被仰登重而使

者被差渡候首尾二候共、鬱陵嶋之儀被差除儀難被成候与之御事二候者、夫迄二而候、万  
 二一も對州より之御心入尤二候間可被差除と有之儀も御座候時、使者御返簡請取候間ハ、  
 御直シ難被成儀も可有御座候、又拙子了簡斗二而申入事二候者任仰候儀も可有御座候得  
 共、此方より念入申越候上、国より之了簡二候へハ無御注進候而致歸国候時者、拙子首  
 尾茂不宜候間、乍慮外使者之身二御成被成、御了簡可被成候、右申候様何ぞ望有之而之  
 事二而無之、了簡之趣被仰届迄之儀二候得者、御注進被成相障儀可有之とハ不被存事二  
 候、被仰聞候通貫様拙子儀者内證同前之儀二御座候、幾重二茂得御内談可申候、拙子身  
 も御替り御了簡被成、宜御注進被成候様二、此上にも御注進難被成思召入も有之者、近  
 日出会可仕候間、乍御大儀御兩人此方江御越被成候様二申渡ス

〴〵與左衛門方より二月十四日御国御家老中被差越候書状之略

〴〵昨日接慰官方より之返答二申来候ハ、段々被仰聞候趣致承知御尤存候、乍然右以申達候  
 通鬱陵嶋之儀書込不申候而不叶子細有之、談合為相極事二御座候、御国より被入御念御  
 誠信之趣者、朝鮮之為二茂不浅忝儀奉存候故、早速都江可致注進儀二御座候得共、唯今  
 為申登候而も晝面直り申儀決而無之候、還而又宜ク間敷存寄御座候、鬱陵嶋之儀書込  
 候とて日本之御為二少も障儀無之候、重而又御使者被差渡候共、宜了簡御座候間御氣  
 遣被成間敷候、国王之命二罷下候へハ王之名代二而御座候故、都江致注進候同前之儀二  
 御座候、致歸京候者御誠信之趣具二申達事候、重而御使者被差渡候共成程首尾能可仕候、  
 此段御国江茂被仰上御使者にも心安被思召候而、唯返翰御請取可然之由申来候付、為念  
 接慰官方より口上書請取置、明十五日御返翰請取来廿二日乗船仕苦二御座候

〴〵接慰官より與左衛門江之口上書左二記之



今上番

貴州之勤念備詳悉其誠信

至意寔出為繫邦之義而第鬱陵二字載書面

不得不已而慮有所在也雖達京都決無刪改令

若

啓聞事機不且也以誠信之語則答書傳授之後即

可修 啓至於還朝亦當口達不亦宜乎接慰事



承

國命乃是 王以則朝是之言即接慰之言也奉官亦  
來可以便其處心 勿慮安心以此歸告取旨而  
不可轉 啓無益唯在答書傳授之為愈也  
甲戌二月 日 接慰官

- 同七年二月十八日与左衛門一行出宴席設行在之也
- 〃 出宴席之式与左衛門記録ニ不相見候故不記之
  - 〃 二月廿一日御国より飛船渡海御国御家老中より二月十八日書状到来其略左記之
  - 〃 阿比留惣兵衛ニ申含候口上之趣并書面之通、朴同知召寄接慰官東萊江茂被申達返答之様子朴同知申聞候段之委細帳面ニ記之、被差越具令披見候、朴同知返答之趣ニ而ハ此方より之思召寄之通、具接慰官東萊江茂不申達、其身一分之返答之様ニ相聞ハ候、此方之思召寄一応不被仰達候而返翰被請取候段者難被成事候、此上又々口上ニ而、朴同知江被申聞候共接慰官東萊江者委不申達、中途ニ而差繕返答可申哉与無心元存候、依之思召寄之趣貫殿より接慰官江被申達候、口上書真文ニ致今度差越候間、書札等者常ニいたし付候様ニ相認、接慰官東萊江被致対談、具ニ被申達候上、口上書直ニ被相渡、可然存候、接慰官東萊書付被請取之、都江注進可有之候、朝廷方被承候上ニ而も其俣被請取候様ニ申来候ハ、可被成様も無之事候間、已後如何様ニ成行申候ととも彼国不覚悟之上之事候故、此方ニ可被成様無之と思召寄、一端不被仰達候而、返翰御請取被成候段者、非本意候故、右之通ニ候、口上書御渡候儀朴同知江被申聞候ハ、接慰官江対談之障にも可罷成敷与存候、乍然其段者其元之勢次第ニ存候、朴同知請答之趣考見申候ハ、兎角此方ハ御奉公振ニ取持申候との誼を立たかり申候様ニ被存候、先便ニ茂申越候通而国之間之出入ニ候故、中々下々ニ而取持武者いたし様之手立ニ而罷成事ニ無之候、ケ様之儀少も作意を以、手立かましき儀仕置候而、如何程首尾好候ととも以後之儀、至而大切成事候故、左様ニ者難被成候間、鬱陵嶋之儀者書面ニ除申候方可然候、乍然決而除不申心入ニ候ハ、今度彼者共參候嶋者日本之内ニ而者無之、朝鮮国之内鬱陵嶋ニ而候由有之俣ニ申来候ハ、朝鮮之為ニハ大切成事候得共、此方ニ者無別條御取次被差上事候、乍去左様ニ認被差越候而者從 公儀其俣ニ而者被差置間敷候故、至而大切成事ニ罷成候、其上從 公儀急度被仰達候首尾ニ成候ハ、返翰書面ハ何程強被書候共、彼嶋ハ朝鮮より往来仕候事も手を付申候事茂罷成間敷候間、押出候而恥辱を取候様ニ可罷成段同前之事候、左様ニ可罷成儀御了簡被成ながら不被仰達候段ハ非本意候、兎角此方よりハ誠信之御真実を以、思召寄被仰達候趣、一端朝廷方御聞届候様被成度思召候、被聞届候上ハ如何様ニ成行候而茂、彼国之分別次第之事候、此度之儀者下ニ而とらふと申事ニ而者無之候、彼国より之返翰ニより如何程大

切成事ニ成可申茂難斗候故、以來之儀考見申候程此方より誠信之御心入無殘彼方江不被仰達候而不叶事候間、此旨能々御落着候而可仰談候、其元より之御紙面考見申候へハ、兎角朴同知申分者手立与取持之心はなれ不申様ニ被存候、取持もいたし様も中々入申事ニ無之候、偽かましき儀又ハ手立らしき儀惣而粉敷事曾而不罷成候、両国とも真実相尽候而不申談候而不叶事候間此段堅可被申達候

〃 鬱陵嶋之蔚之字此字返翰之草案ニ相見候故真文之口上書ニ致書載候間左様御心得可被成候

〃 接慰官候江申達様ニ与之口上之真文左ニ記之 真文書稿不相見候故不記之

○ 同七年二月廿二日與左衛門一行朝鮮表乘船同廿四日鰐浦御関所帰着也

〃 二月廿七日與左衛門一行府内廻着

〃 二月廿五日與左衛門御関所より府内御家老中江差越候書状之略左ニ記之

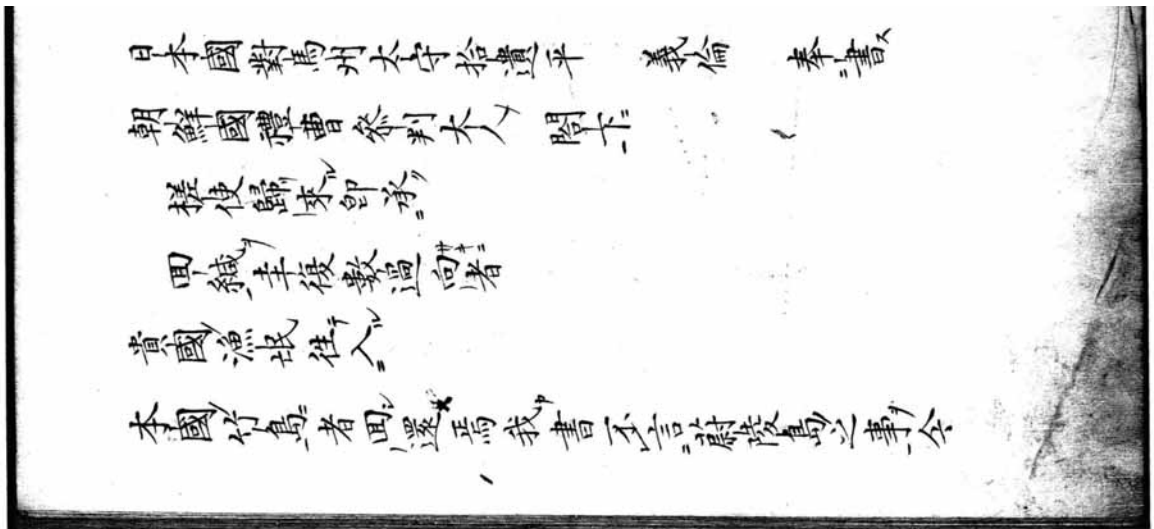
〃 私儀去十五日御返簡請取十八日出宴席仕、廿二日致上船候、廿四日朝鮮出帆仕、西上刻鰐浦致着船候、去十八日之貴札於朝鮮廿一日飛船参着致拜見候、被仰下候御用之儀急度申断是非を正し可申儀御座候処、出宴席相調候以後者、接慰官接待被仕候儀決而不罷成由ニ御座候、然上者御用之儀者差置接待斗之論ニ罷成朝鮮之儀ニ御座候故、其内接慰官与風被致上京候様成首尾ニ罷成候ハ、無十方躰ニ而御用向弥埒明申間敷哉与大切ニ存帰国仕候、去廿一日之貴札於鰐浦致拜見候、去九日より接慰官江申掛候段々先達而申上候、此御返事相待答之存入ニ御座候者、何年成共滞留不仕候而不叶御事御座候処、阿比留惣兵衛便へ被仰下候趣一篇ニ相心得御返事相待不申候段、可申上様も無御座候、其元より之思召奇、重而都江被仰達候儀者前以接慰官江堅申達置候、一刻も早く上府仕段々申上度覚悟ニ而船迄申付置候得共、風迎其上雨氣ニ罷成無心許由、所之者申ニ付様子見斗罷在候、上府延引仕儀も可有御座哉与存、郡繼以飛脚如此御座候、油断不仕追而致上府委細可申上候

〃 與左衛門府着之即日御目見等相濟御家老中詰問江退去

〃 今度之返翰此方より不被仰越蔚陵嶋を書入候儀、一嶋二名之仕立ニ而候へハ以來ニ至而不相濟事ニ候、蔚陵嶋竹嶋一嶋ニ而候段無御存知躰ニ而此返翰被差上候儀大切成事ニ候、定而御吟味も可有御座候、若左様無之共此方より一嶋ニ而茂可有御座哉与、御推被成候旨不被仰上候而不叶事ニ候、其時ニ至而竹嶋者以前朝鮮之蔚陵嶋ニ而候へ共、年来日本之御支配ニ候間、彼島江朝鮮より渡海不仕候様ニ与、重而被仰渡首尾ニ至而者、其節朝鮮之返答ニより大事ニ及候か、又ハ左候ハ、日本ニ出し候与、有之而も如何鋪候、兎角ニ付重而日本より被仰遣候首尾ニ成候而者、朝鮮之為不宜事ニ候、唯今迄ハ御誠信之思召奇御付届迄ニ朝鮮江被仰越候得共、能逐吟味候而者、竹嶋之儀権現様以來因幡より支配仕来候儀無其粉候之処、彼国ニ者年久捨置候嶋を元我国之内与可申様無之候、然處一嶋二名ニ仕立粉し置候書面御取次被成候而者、御不念ニ罷成大切成儀ニ候、急度此返翰被差返蔚陵嶋之文字除候而返簡相改被差越候へと、敵敷被仰遣、其上ニも決而難除事ニ候ハ、今度彼者共参候嶋者日本之内ニ而候由有之俟ニ申来候へハ、朝鮮之為ニハ大切成事ニ候得共、此方ニ者無御別條御取次被成被差上事候、日本朝鮮之御挨拶ニ而候へハ、少も繕かましき事在之而ハ大切成儀ニ候間、早々御使者被差渡可然候、明日以酩庵被仰請返簡入披見御相談被成可然与談合相濟披露有之候処ニ、尤ニ被思召上候間以酩庵江申

遣候様ニ与被仰出、則御使者を以與左衛門致歸国持渡之返翰可入御披見候間、明日御出候様ニ与被仰遣、翌廿八日以酹庵登城ニ付御返簡御披見相濟候上、右之趣御家老中より申達候所、以酹庵ニも尤之由御返答在之候付、與左衛門再渡持渡り御返簡之和又被差出之、以酹庵直ニ御請取御帛被成

- 同七年二月廿九日渡海、訊官安同知、朴僉知、金正府内在留ニ付、平田隼人、裁判平田所左衛門、高勢八右衛門共、館江被差越竹嶋一件之参判使多田與左衛門歸国之所返簡之趣不宣候付、與左衛門儀再度御使者被仰付被差渡候間、三訊使歸国之節朝廷江宜申達候様ニ与被仰渡候所、奉得其意候致歸国宜申達旨三訊使御請申上候也
- 同七年三月大差使之正官多田與左衛門、都船主米田柳左衛門、封進寺崎与四右衛門渡海被仰付、竹嶋一件ニ付、最前ニ使者差渡候所、御返簡之内ニ蔚陵嶋之儀相見へ申候、此方より蔚陵嶋之儀不申達候所、彼嶋之名目相見候段難落着候間、此文字被差除可然存候ニ付、再渡使者を以申入候与之儀、礼曹参判参議及東釜江、以御書簡被仰遣也  
 〃與左衛門持渡礼曹参判参議東釜江之御書簡左ニ記之



田間有蔚陵島名是所難曉也仍再差正官橋真重都  
船主藤成時以誤除却蔚陽之名惟幸不佞東行在近  
不究縷舉餘附使价舌端不腆弊產聊申退忱  
荒留肅此不宣

元祿七年甲戌二月 日

對馬州太守拾遺平 義倫

日本國對馬州太守拾遺平 義倫 奉書

朝鮮國禮曹參議大人閣下

使价歸來

田間隨空向者

貴城漁民往入

本國竹島者田還焉茲

參判答書方有蔚陵島名由是再差正官橋真重  
都船主藤成時要除去蔚陽之名不佞東行在近  
書不盡言餘附使价舌端不腆別錄聊致遠誠  
笑留幸甚肅此不宣

元祿七年甲戌二月 日

對馬州太守拾遺平 義倫

日本國對馬州太守拾遺平 義倫 啓達

朝鮮國東萊金山兩令公 閣下

向者

貴國漁民往入

本國竹島者甲還焉仍承

報緘茲

參判答書方有蔚陵島名而更難曉以故再遣

平官攝真重都船主藤成時呈書

南宮旬煩

轉達不佞今東行做裝茲不觀繼悉附使告別

箋翰儀庸表使信

莞存幸甚草此不宣

元祿七年甲戌二月 日

對馬州太守拾遺平 義倫

右書翰三通天龍寺南芳院東谷洵長老之書稿二書載在之候故別幅者略之

〃最前二與左衛門受取帰候返簡三通又々持渡ル

〃阿比留惣兵衛并醫師笠原養説、其外足輕五人与左衛門江相附被差渡

〃與左衛門乗船五十六挺一艘小早一艘引船御手船壹艘也

〃是より前、先向使鈴木加平次被差渡、館着二付御用之參判使多田与左衛門再渡可有之館守式度六右衛門、裁判高勢八右衛門方より両訳を以東萊江申達候処、五月五日東萊より両訳を以先向使之儀二付、都表より返答到来之由二而申来候ハ、參判江之御使者被差渡候由承届候、乍然不時之御使者之儀向後被差渡間敷与、兼而御約束之事情、若竹嶋之儀二付被仰渡事二候ハ、此段者先頃相済返簡御請取御使者帰国為被成事二候ハ、又々被仰渡候儀有之間敷与存候、旁以今度之御使者難請存候間、被差渡候儀御無用二被遊被下候様二与之儀二付、館守裁判返答二都より御返事之趣被仰聞承届候、不時之史者差渡申間敷之由兼而御約束申置候由、是以難心得事二候、首尾二より為事立儀者、參判之使者ハ不及申其外之

雖為使者、差渡可申事二候殊更此度申談候、竹嶋之儀者東武より蒙 仰被申越儀二候ハ、返簡之内難落着儀有之ハ、何時も申談、直シ不被申候而不叶事二候、如何様之旨尾申越候茂無御存、御使者を御請被成間敷与之儀誠信之上二而有間敷事二候、使者を御請接慰官被差下書簡之趣又者使者口上御聞届候而、其上二而善惡之御返答者可有之儀二候、弥使者之儀進之罷越候様二申遣候、定而對州可被致出帆与致推量候、此段東萊江申入都江注進被仕候様二与申遣

〃五月廿八日與左衛門一行府内浦出帆間五月二日鰯浦御閑所廻着

〃此時 靈光院公御在江戸ニ而御左右到来故、與左衛門方江御国御家老中より差越候書状之略左ニ記之

〃此度江戸表より被仰越候者、貴様朝鮮渡海之儀段々及延引候付、返簡到来之御案内遅々可仕与大切被 思召上候、江戸表之勢延引候得者不直儀二候間、急度渡海仕候様二可申渡与之御事候

○ 同七年閏五月十三日與左衛門一行渡海館着

〃持渡り書簡両訳写取候次第與左衛門記録ニ不相見候故記之

○ 同七年廿一日於江戸表竹嶋返簡之写、并返簡之内ニ蔚陵嶋之文字在之不審ニ相見候故、委細彼国江相尋候為使者、再渡差渡置候趣、御口上書被相添御老中阿部豊後守様江被差上也

〃七月廿一日阿部豊後守様江平田直右衛門参上、御用人川勝平藏江致面談、殿様より御口上之趣段々申達御返簡写御返簡并口上書渡之候所、読聞せ候様ニ与之事故、二篇読候而相渡候所、則被申上御返答被仰出候ハ、委細被仰聞候趣承届候、此方ニ而も得与致吟味自是御返答可申入候旨豊後守様御返答之旨被申聞

〃御返簡写別ニ相見候故略之

〃御口上書写左記之

口上書

一 去年竹嶋江罷渡候朝鮮人之内式人被留置候を長崎御奉行所より請取、彼国江送還し重而不罷渡候様二可申渡之旨、去年五月十三日土屋相模守殿より被仰渡候付、則多田与左衛門与申者使者ニ申付、書簡相添去年十月彼国江差渡候処ニ返翰当年二月ニ相達候、然処返簡之内ニ蔚陵嶋与申儀相見ハ申候、此方より者竹嶋江重而朝鮮人不罷渡様ニ与申遣候処、蔚陵嶋江茂不遣候与申越候段、朝鮮国ニ心人も有之而書込申候哉与被存候、若又文筆之勢迄ニ書込申候哉、其段委相尋書込不申事済候ハ、蔚陵嶋与申儀除可然存、右之使者再罷渡、此旨申達候様ニ申付置候、自然除申間敷由候ハ、如何様之儀ニ而書込申候哉、子細委承届帰国仕候様申付候、夫故返翰差上候儀及延引候

一 蔚陵嶋与申儀返簡ニ書出候段不審ニ存候、子細者竹嶋之方角ニ相当り朝鮮国之蔚陵嶋与申嶋御座候田及承候、若竹嶋を彼国より蔚陵嶋与申候哉無心元存候

一 竹嶋之儀、若朝鮮国之蔚陵嶋ニ相極り候而も彼国より数年捨置、日本江年久敷属シ申候故今更申分者無之苦二候、乍然朝鮮国之与地凶ニも蔚陵嶋与申嶋書載有之候故、蔚陵嶋日本江属し候与申候而者、北京并朝鮮国中之外間も如何候故、嶋者遠方与申小嶋ニ而捨置候故日本江属し候而も不苦候得共、名斗成共殘候為与存、我国之蔚陵嶋与申

事返簡ニ書込申候哉与推察仕候

一若右之推量之通ニ而返簡ニ書込有之、以来書面斗を見候而者、竹嶋与蔚陵嶋ハ二嶋之様ニ相見へ申候付、若竹嶋江又々朝鮮人罷越此方より御咎も御座候節、日本之竹嶋与ハ不存、我国之蔚陵嶋ニ而御座候故罷渡候なと、返答仕候而者、已来出入絶申間敷与存候、従之此度粉敷無之様ニ相極置可申与存、様子尋ニ遣申候、彼方之返答之趣ニより重而得御内意申儀も可有御座候以上

七月廿一日

宗對馬守

右料紙□吉半切ニ相認

- 同七年八月九日與左衛門一行茶礼設行接慰官東萊府使被罷出、於大歴対面御書簡渡之、最前之返簡蔚陵嶋之文字被差除候様ニ与之論談報復在之也
- 〳是より前八月三日接慰官并馳走訊朴同知、朴僉知罷下東萊着之由訓導別差方より申来
- 〳接慰官姓志 与左衛門記録ニも不相見候故闕之
- 〳八月四日朴同知、朴僉知裁判高橋八右衛門方迄入来ニ付、都船主并裁判より茶礼之儀、明後日ニ相極可申候、旧冬茂茶礼之節平座候而、御用向申達置旨申達候所、両訊官返答ニ今度之儀御用大切ニ御座候付、早速茶礼被相調候事如何ニ候、今晚者夜も更申候間明日可致入館候、内々御咄申度儀御座候条疾与申談其上ニ而茶礼日限被相濟候へと申候而罷帰ル
- 〳同五日朴同知、朴僉知都船主米田柳左衛門方江罷出候ニ付、都船主柳左衛門、裁判八右衛門同座ニ而対面之所、両馳走訊申候ハ今度茶礼可被相調与之儀御尤存候得共、即時ニ難成様子御座候、子細者今度又々御使者被差渡候付、当春之返答老嶋二名ニ思召候儀勸文与相聞へ候之处、其旨御書簡ニ見江不申、唯蔚陵嶋之文字除候様ニ与斗之御書面ニ御座候へハ、当春於御国訊官共ニ被仰合候御口上与相違仕候、訊官共ニ被仰合候通ニ候へハ、誠信御返答之申様も有之候得共、唯今之御書簡にてハ聞へかたく御返答之申様も無御座事ニ候、左様之御返簡請申儀難成旨、接慰官江朝廷方被申合候、御使者中戻り被成候歟、無左候ハ、御書簡斗被遣、老嶋二名ニ思召候段之御書載可被成候、左候者委細御返答可被申候、其内者いつまで成共接慰官相待可被申候、御馳走ニ罷下候上者茶礼可被成与御座候ハ、いなとハ被申間敷候間御勝手次第可相調候、乍然御書簡者難請取由接慰官被申候、ケ様之内證御座候付、御内意不申入、茶礼之場ニ而御書簡請取間敷与被申候者、不首尾成儀ニ候故、早速難相調旨申ニ付、八右衛門、柳左衛門返答ニ無十方儀を申聞候、左様ニ申候与而書簡持戻り可被申候、又差返之認直シ可被申歟、不慮之儀申出候なと、挨拶候時左候ハ、口上ニ而者申違も有之物ニ候ハ、口上書被成御出し被成候ハ、夫ニ而者請取被申儀も可有御座哉と返答申候通、八右衛門、柳左衛門兩人與左衛門方江參申聞候故、返事ニ申遣候者書面聞候かたく候間、如何様ニ認候へ、使者中戻候へなと、申儀珍敷儀を承候、其上口上書ニ而者請取被申儀も可有候哉坏与申儀猶以難心得候、縦朝廷方被仰候とて持渡候書簡可取帰哉、又口上者申違も有之与申候ハ使者口上者證拠ニ不罷成候哉、口上無益之物ニ候ハ、口上書にて下々ニ為持差越候而も可相濟候、朝鮮二者無之事ニ候哉、書面ニ難書述儀を口上ニ申遣事ニ候、因茲又々御使者被差渡候、相談を以口上書ニ而者可被請取坏与繕候様成事ニ而者、決而不相濟候、今度之儀者接慰官申談候而も相濟儀ニ而無之候、急

度茶礼相調口上之趣具ニ被聞届委細注進有之而、都より御返答承迄ニ候、相談ニ而相濟儀ニ候ハ、今日ニ茂両人江対面候而可申談儀ニ候得共、何角も不入志途ニ朝廷方御返書承儀ニ候ハ、下ニ而兎角申合候程御用ニ茂障、判事何茂之為不宜候了簡など、申儀必無用ニ仕、急度明後七日茶礼相調候之様、接慰官江可申達旨両判事江返答之趣、両人より申渡候處、具ニ承候間、先今晚東萊江罷越接慰官江申達明日致入館可申入由ニ而罷帰

〳〵同六日両馳走詛裁判方江罷出候付、都船主同然ニ対面之所両詛官申候者、昨日被仰聞候趣昨夜東萊江罷越具ニ接慰官江申達候、明日茶礼可被成与被仰越候、勘文之志嶋二名ニ思召候与之儀御書簡ニ不相見候付此御書翰難請取旨、都ニ而朝廷方より接慰官江被申合候、兎角茶礼不相調候而不叶儀ニ候得共、右申候通御書簡御直シ被成候儀、茶礼之日限幾日差延度之申達候得共、達而被仰聞候付幾日ニ相調候旨、都江断之為ニ候間明日之儀者被差延、明後日八日ニ被相濟被下候へ、又昨日茂申入候志嶋二名ニ被思召候与之儀御書簡御直シ難被成、其上御口上書も難被成与御座候上者、茶礼之節御使者之御口上ニ慥被仰達候様被成被下候へ、左様無御座候而者御返答之申様無御座ニ付、茶礼相調候而も御書簡請取申儀不罷成由、両人申聞候付、八右衛門、柳左衛門致返答候者、段々申分無十方事而已申聞候、接慰官下着九十日ニ及候迄、延引之事ニ候得者、御待遠ニ可思召段致推量候、御勝手次第急度茶礼可相調候与其方共方より申掛候而社尤之事ニ候、是程迄相延候上、又々茶礼迄一日一日と可相延与申儀両人取次共不存候、茶礼相調候而も書簡ハ難請取与申候事、茶礼ハ何之用ニ相調儀ニ候哉、接待之上書簡不相渡候而差置物ニ候哉、一々不聞申分、茶礼可相延与申儀無十方事ニ候、此段正官人江申入候儀難成候、明後八日者日本之國着ニ而候間、急度明日茶礼相調候様ニ早々罷帰接慰官江申達相濟候様ニ可仕旨、申渡シ候之處、今晚者夜ニ入、東萊迄参候ハ、夜更相談可埒明トハ不存候へ共、両人達而申事ニ候間、直ニ東萊江罷越否之儀明朝早々可申越旨申候而、暮方罷帰ル

〳〵同七日両馳走詛、都船主方江入来ニ付、裁判同然ニ対面之所両詛官申候者、昨夜裁判より直ニ東萊江罷越候所亥刻迄ニ致参着候故、接慰官東萊被休候付相談不罷成、今日与申候者難成儀ニ御座候、明日者日本之國着与被仰候間、明後日九日ニ被相濟被下候様ニ与、接慰官東萊被申候由申ニ付、兼而申聞候通明日者日本之國着ニ而候故、又八日相延候儀如何ニ存、是非今日相濟候様ニ昨夜達而申聞候へ共、右之通ニ候ハハ無力事候、左様候者、弥明後日九日可相調候間無相違可仕旨申渡候處、明日調可申与申程之儀ニ御座候ハハ、明後日之儀者猶以違変仕間敷由申聞ル、并御用之儀茶礼後平座候而可申粗由、正官人被申候由両人申渡ス

〳〵両判事江裁判都船主申掛候ハ、今度御用向各別ニ候へ共、両判事此方躰之何角申候而、宍も役ニ不立事ニ候得共、又下より之申成も可有之事ニ候、今度又々被差渡候儀能々両人も致合点候へ、両国首尾宜様ニ与被存候而之事ニ候、朴同知儀者最初より取次候事ニ候へハ、先跡入粗能合点にて候、今度国より被申越候通、蔚陵嶋ノ文字さへ被除候得者何之言事折渡り無之候、皆共如何存候哉被申越候通、文字被除返簡被相渡候とて、對馬守殿為ニ宜与申儀毛頭無之候、又此文字被除候とて朝鮮之御為惡敷与申儀存寄無之候、蔚陵嶋之名目を朝鮮ニ被殘候儀如何程も了簡有之事ニ候、此段朝廷方能御合点被成候者、早々可相濟儀ニ候、返簡延引候而者 東武之首尾惡敷候、望之通返



簡下り候へハ、明日ニ茂帰国被仕事ニ候へハ、両国之首尾何茂迄埒明事ニ候、八右衛門儀当春者訊官同道国元江居候付、爰元之儀然与者不知候へ共、正官人江朴同知為申入儀茂有之由ニ候、其上接慰官書物も被致候様粗聞及候、都表諸役移替候とて接慰官なと書物末世ニ至而も證拠ニ成間敷事ニ候哉、勿論ケ様之沙汰出ル儀ニ而無之候へ共、事六ケ敷成行候ハ、何角不残不願候而不叶事ニ候、其節者第一朴同知首尾宜ケル間敷候、朴同知科ニ逢候程之事ニ候者、朴僉知茂本望にハ有之間敷候、旁惠敷事而已ニ而候、今度之儀下より之沙汰曾而無益之儀ニ候得者、能合点之上ニ候へハ双方論談取次之心入ニ候間、此段能落着居候へと懇ニ申掛候へハ、朴同知、朴僉知返答ニ御懇ニ被仰聞忝存候、左様之儀を得与御内談可申与存毎日致入館候へ共、無御聞分御しかり被成候故申出儀不罷成此方より不申入候、蔚陵嶋之文字御嫌被成又々御使者被差渡候付、当春帰国之訊官江被仰含候者、此返翰御了簡被成候へハ竹嶋ハ蔚陵嶋ニ無粉候得共、数年日本之御支配ニ被成来候を此文字書込、老嶋ニ名ニ粉レ候儀聞江たる仕方ニ候間、御取次被成間敷与被仰聞候、其旨訊官共致帰国具ニ申達候之処朝廷方被聞届、扱ハ御国之御心入共不存候事広不成様ニ与存 東武江被仰上首尾宜様随分結構ニ相認候書面被仰分被下間敷与御座候ハ、常々之御誠信ニ致相違候、当年八十一年ニ罷成候萬歷年中ニ被仰越候御書簡、其返簡而通迄差渡急々磯竹嶋者則我国之蔚陵嶋ニ無其粉儀、能御存知被成候上、如此被仰越候へハ無力事ニ候間、我国之内ニ候通槌成證拠書立、重而伯着より日本人不参候様ニ御断之返簡相認可申候由緒疾与 東武江御聞被成候者、御誠信之儀ニ候間嶋を御返シ可被成与可有之候、若又御了簡御座候而被仰下儀も有之候者、其時之仰ニよつて申上様可在之与此通ニ都之相談決定仕候、然共御書簡ニハ唯蔚陵嶋之文字差除候へと斗有之、訊官口上者相違ニ候故、委返簡難仕候間御持戻り被成候か、飛船ニ而御返し御書込被成候かと申候へ共、無御承引候之故、御口上書被成御渡シ被成候様申候得共、是も難被成与被仰聞候、然者茶礼之節御口上ニ而槌ニ被仰聞候へと接慰官被申候儀、右之通之相談ニ相極り朝廷方より接慰官江被申渡候、御兩人御内意被仰聞候趣得与承候へハ、又々被仰渡候儀其様子も可有之事与存候、何事も御相談被成御心入ニ而御座候者、又仕様も有之間敷儀ニ而無御座候、蔚陵嶋之文字除候事右之相談決定之通ニ候へハ、決而不罷成儀ニ候、其外之書様にて 東武江被差上宜様ニハ何分ニも相談可成事ニ候、唯今下書成とも被成被下候へ、得与接慰官東萊江申達兩人より能様被致注進候ハ、宜相調由申ニ付委ク承届候、兩人懇ニ申聞候趣聞捨にも難成候之間、正官使江可申達由申候而、八右衛門、柳左衛門正官方江参、右之通申聞候付致返答候者、兩人内意之趣具ニ御承知候、今度之儀者下ニ而何角与申儀ニ而も無之、如何程ニ存候而も相届儀ニ而無之候得共、兩人共心入候へハ珍重ニ候、今度之儀蔚陵嶋之文字被除候得者其返翰早速請取、翌日ニ而茂致帰国事ニ候、左も無之、御返簡ニ候へハ縦御書面宜与我等存候而も、江戸對馬守殿江不伺候而者難請取候、日和ニより何十日掛り可申も難斗事ニ候間、両判事肝煎ニ而罷成儀ニ候ハ、早々都より御返簡下書到来候様精出し候へ、御紙面此方より望儀ニ而毛頭無之候、増而存寄無之候 東武首尾能様ニ与之心入ニ候ハ、認様其元ニ而可有了簡事ニ候、只下書早々下り候儀專ニ候、乍然對馬守殿了簡有之ハ、幾重ニも直シ可申与之朝廷方御心入ニ而無之候得者相談無益事ニ候、兩人働者ケ様之儀ニ候間肝煎候へと之正官人返答之趣、両判事江申渡シ、其上ニ而八右衛門、柳左衛門挨拶ニ正官人ハ右之通被

申候儀尤二候、皆共我々者無益之儀二而茂相談候儀役目之本意二候間、幾重二も可申談由申聞候処、御相談与有之候而者、大ニ心入違物毎仕能候、接慰官江具ニ申入候ハ、宜被致注進候、明日入館候而可申由申候而罷歸ル

〃同八日兩馳走訖入館、都船主裁判同道ニ而正官方江罷出候付、対面之上正官申進候、昨日裁判都船主江咄仕候内意之趣、具ニ聞届候、其節返答申進候様内所向之事二候者、幾重二も相談仕様も可有之事二候得共、詰かましき儀還而不宜事候、今度之儀下ニ而何角与申談ニ而無之候、裁判何茂内談ニ者唯真直成儀を以早速埒明候儀何茂之働二候、乍然首尾宜様皆共偏ニ存入候段尤二候、其心入二候得者此方茂同前二候、東武之首尾不宜候而ハ朝鮮之為悪敷通交之道少も無障様被存被申越候趣而人能合点候由ニ候、其通朝廷方思召入下書をも被差越、対馬守殿江御相談之御心入二候者長久之本二候、朴同知儀者最初より取次之事二候ハ別而存入可有之事二候与申聞候処、御相談之御心入ニ御座候ハ、朝廷方も心入違申事候接慰官東萊江可申入由返答ニ申聞ル

〃昨日裁判より被仰聞候御用向茶礼以後御平座候而可被仰但旨、接慰官東萊江申達被相心得候、東萊者交代之儀申来候得共、今度御用向各別ニ候間接待被罷出候へと都より之差因ニ而、弥明日被罷出答之由申聞ケ、暫挨拶候而帰掛而判事裁判宅江立寄、昨日も申候様諸事御相談不申候而不叶儀二候、思召寄下書ニ而も被成被下候ハ、宜様接慰官東萊江相談可仕旨申候付、此方より下書与申儀不存寄儀二候、増而思寄有之とて役ニ立候事にても無之候、左程ニ存儀二候ハ、接慰官東萊江相談候而下書仕為見候ハ、何とそ存寄相談仕儀も可有之哉与而人返答申候処、如何ニも相心得候罷歸相談候而、書付明朝早々宴席前而人可致約束旨挨拶候而、扱昨日も申候通一嶋二名之儀無之ニ付而難致返簡候間、此書簡不請取候之様朝廷方より接慰官江被申渡候付、明日之茶礼御書簡請取候儀難成候、其間者請置右之注進ニ而都之相談宜申来候ハ、其節可差登候、又右之相談違変不仕候ハ、兎角不時之接待成者仕一嶋二二名ニ極而被思召候与之儀承御書簡可差登候与、接慰官被申候由申ニ付、左様之無十方事を接慰官被申候とて此方江申聞ル物ニ而候哉、増而正官人江取次申儀不存寄事二候、書簡不渡茶礼斗可相調与正官人可被申か請置可申与申儀如何様之儀ニ而候哉、書簡請取候ハ、請置候共、則可差登とも其段ハ其元内證之儀二候ハ、此方構事ニ而無之候、接待之場ニ而接慰官書簡請取間敷与被申候とて不相渡差置可申哉、不埒成儀申出シ大事出来可申由都船主裁判強申聞候ハ被仰聞候趣致合点候、此方ニ而仕様可有之由ニ而罷歸

〃同九日之朝茶礼前朴同知、朴僉知裁判宅ニ参、昨夜申談候儀夜更接慰官東萊被休候付、今朝可申入与存御用茂有之間、早ク坂之下江御越被成候へと東萊江申遣候処、常より早ク被相越候故、坂之下ニ而疾与申談候ハ、大切之儀を爰元ニ而下書など仕儀不存寄事二候、何茂被仰聞御心入二候者、諸事宜相済旨接慰官被申候由申ニ付、裁判返答ニ尤之儀二候、縦下書約束候而も左様之儀我々申談候事至而大切成事二候故、約束候共被見申聞敷与昨夜より各々思案相極置候処一段ニ候由申聞ル

〃大庁ニ而接慰官東萊江御使者より論談之次第左ニ記之

正官口上

〃旧冬使者を以申達候御返簡疾与被見いたし候之処、此方より之書簡ニ不申進、蔚陵嶋之儀御書載候儀難心得存候、御返簡之趣致了簡候得ハ、重而又朝鮮之漁民竹嶋ニ罷越致漁候節、日本より被仰断候ハ、其時之御返答ニ竹嶋江者不参候我国之蔚陵嶋江参

候与御返事被成、能様ニ御拵物与存候、両國之儀粉敷御返簡取次被申上候而 東武江差上被申候儀決而不罷成候、若此俟ニ而 公儀江被差上候者如何様之趣ニ而此方より不申越儀を書載有之哉、其意趣真直ニ被聞届御案内被申上候儀、對馬守殿役儀ニ候処、不埒之返簡差上候なと、有之候者、對馬守殿為ニも不宜、其上右之通ニ而ハ不被差置、必定江戸表より急度以御大志可被相済与可有之ニ候、然上ハ事大事ニ及候者猶以不宜儀候、又無何事被相济候共朝鮮之御外聞悪事ニ候、縦右之通ニ無之共役目之事ニ候間對馬守殿急度被致渡海、都迄も被罷通、朝廷方江懸御目否之被埒明候様ニと有之歟、兎角何レ之道ニ而も朝鮮之御為不宜事ニ候、何分ニ茂而国首尾能様ニ与被存候而又々使者を以被申候、誠信之旨を能御合点被成、蔚陵嶋之文字被差除候而御返翰早々可被差越候、此段幾重ニ茂申達、其上ニ茂若無御承引御源志茂有之而、難被除ニ候者如何様之儀ニ而御書載候与之様子委細御返簡ニ可被仰聞候、万一御返答之品ニより不首尾与被存候而も有躰之儀ニ候ハ、取次可申候、此旨能御合点被成御注進可被成候、今度之儀日本朝鮮之御挨拶ニ而候得者、接慰官拙子杯論談ニ而御用向善悪之儀相济事ニ而無之候、乍然取次之申成ニ依て上之御聞入善悪之違有之間敷物ニ而無之候、無申入迄候得共御返答之品ニより事大ニ罷成候段能御了簡可被成候、御存知之通拙子儀旧冬致渡海其御返翰于今遅延 東武之首尾可宜候哉御察可被成候、度々飛船到来御返翰延引不首尾ニ候与之儀以之外ニ申来候得共、其返事可申遣様も無之候、早々御返簡到来候様御注進可被成旨朴同知、朴僉知を以接慰官東萊江申達ス

#### 接慰官東萊返答

〴〵被仰聞候趣ニ々承届候、今度拙子罷下候付朝廷方被申含候ハ、今度之御書翰与致一覽候得者、蔚陵嶋之儀書面ニ相見江、宜不思召候間差除候様被仰下候、此御不審曾而合点不參候、蔚陵嶋之儀書込申候儀者、我國之蔚陵嶋与申候而も遠方之儀ニ御座候得ハ、心任ニ者差越不申候、増而貴国ニハ猶以不參候様堅可申付与念を入致書載候へ共、是程結構之認様無御座候、結構ニ認候上を何角与被仰下候儀難心得候、唯当春之返簡御持戻り右之心を委細被仰上候ハ、 東武ニ茂成程御合点被遊儀ニ候間、幾重ニも右之返簡持帰可被成候、對馬守様御誠信を以被仰越候由段々被仰聞候御誠信之儀者、于今不始、朝廷方ニ茂意儀ニ被存候由被申聞

#### 正官返答

〴〵被仰聞候趣承届候、蔚陵嶋之嶋之文字御座候而不宜子細若段々唯今申通ニ候此返翰東武江差上被申候而ハ曾而事済不申候、然上ハ事大ニ成、朝鮮之御為不宜儀同前ニ候、殊両国之間ニ粉敷儀取次被申候事役儀之非本意候、又朝鮮ニ而茂可為其通候、日本にてハ向より之書面ニ応シ候而致返書事ニ候、此方之書面御請被成候而之御返簡朝鮮之御為何之悪事可有御座候哉、兎角此文字之儀不被差除候而不叶儀、能御合点被成御注進可被成旨申達ス

#### 接慰官東萊返答

〴〵被仰聞候趣承届候、最前御返答申候様蔚陵嶋之儀出入申候事別条有之儀ニ而無御座候、是より上、能認様無之与、各々分別相談之上致書載たる事ニ候へハ、除候儀者難成事ニ候、能御了簡被成候へハ御合点被成候間、唯御持戻り被成、朝鮮之心入具被仰上被下候へ、如何様ニ御座候而も此段御使者江申付候へと朝廷方被申渡候之由被申聞

#### 正官口上

〃仰之通承届候、段々申達候へ共御合点無之与見へ申候、御返翰御認被成様結構無此上候間、取歸り候様ニ与朝廷方被仰合候由、夫ニ心違たる儀御座候、此方より申入候趣ハ此方より不申進儀有之、粉敷候付御書面之疑敷儀を申入候、御認被成様之善悪を申ニ而無之候、前之返簡持戻り候様ニ与

帝王より被仰候、朝廷方ニ茂其通ニ候とて為使者罷越、否之不埒明前之御返簡被持帰首尾ニ候哉、縦何ケ年滞留候而も実否不承候而ハ不罷帰候、召物ニ蔚陵嶋之文字被除候へと申入候者、一旦ハ右之通御返答も可有之事ニ候、最前申通、是非不被除候相極候与其様子具今度之返簡ニ被仰聞候へと申事ニ候へハ、唯今之通被仰候儀弥難聞へ事候、兎角者接慰官拙子論談にて相済儀ニ無之候、右之趣具ニ御注進被成候ハ、朝廷方御了簡可有御座候、早々御返書参候様可被仰登旨申達

接慰官東萊返答

〃被仰聞趣承届候、都ニ而被申合候趣茂御座候間二三日致了簡其上ニ而可致注進候

正官口上

〃存入之儀御座候之間御馳走之儀御断申候、茶礼翌日より御定之儀有之由承存候、持来候を何角与申候而者無益之儀ニ候間、用意無之様被仰付候へと申達

接慰官東萊返答

〃他国之使者を諸御馳走不申候与申例も無之儀ニ候、前方ニも御断之由ニ而前接慰官不首尾之仕合ニ候、罷下候節も能々御馳走申様ニ与被申渡候、如何様ニ有之而も御馳走御請不被成候而者、為其ニ罷下候接慰官致迷惑事ニ候、弥快ク請候様ニ与被申聞二三度回答候而相止ル

〃八月十一日朴同知、朴僉知入館、郡船主裁判同道ニ而與左衛門方江罷出、朴同知申候者当春之返翰是程能認様者無之儀ニ御座候を、無御了簡何角与又被仰越候趣朝廷方ニ茂對馬守様御思案被成候ハ、江戸向者如何様ニも被仰上様有之事ニ候を、今度被仰越候趣還而不審ニ被存候、朝鮮之心入具被仰上 公儀江疾与御聞被成候者、能御合点可被成事ニ候間、幾重ニも御使者江申達、当春之返還御持帰被成候様朝廷方被申候之由申聞候付、一昨日茶礼之節接慰官江申入候趣、兩人取次能聞届候書簡之趣善悪を申ニ而無之候、認様悪敷候而も真直成儀ニ候者取次可被申候、認様如何程宜候而も粉敷返簡難請取与申儀ニ候、朴同知疾与合点不参候与返答申候時、朴僉知私具ニ可申候間御聞被成候へ、此程茂八右衛門殿、柳左衛門殿江内々荒増御物語申入候、今度於御国我々宿ニ平田隼人殿其外何茂御出被仰聞候、今度朝鮮より之返簡ニ蔚陵嶋之儀書込有之候、竹嶋者根本朝鮮之蔚陵嶋ニ無粉候得共、数年日本より御支配被成来候を、今此文字書入嵯嶋ニ名ニ粉レ候儀聞へたる儀ニ候、依之被仰断候、ケ様之御用者急度訊官被召寄候而成共可被仰断事ニ候、幸三人渡海近日帰国之事ニ候間、具朝廷方江申達文字除候様ニ可仕候、追付又々使者被差渡候旨被仰聞候付、都ニ而相談之趣色々申入候へ共、御合点不被成候、罷帰則一々朝廷方江被申達候處、我国之蔚陵嶋与申儀萬歴之出入ニ而御国ニ能御存知為被成儀ニ候、然者今度程結構ニ事之不出来様認候儀御了簡可有之儀を還而又今度被仰越候趣、常々之御誠信与不存候由、朝廷方被存込候、此上者如何ニも我国之嶋之證拠を書立 東武江差上候者御誠信を以、重而竹嶋江日本

之通路御止被成間敷事ニ而無之候、若外ニ又被仰聞儀候ハ、其時之仰ニより幾度も申上様可有之候与相談決定仕居候處、今度之御書簡蔚陵嶋之文字除候へと斗御書載、嵯

嶋二名之儀相見へ候付、訊官江被仰合候趣与御書簡致相違候間、御直シ被成候様ニ接  
慰官江被申渡候与、去七日八右衛門、柳左衛門江咄候通、具ニ申聞候付致返答候ハ段々  
申聞候通承届候、竹嶋古朝鮮之内ニ候慥成證據有之とて日本之御支配ニ成間敷ニ而無  
之候、土地之變ハ其時、ニより如何様ニも可移替、夫程慥成朝鮮之嶋ニ而候ハ、油断  
候而、日本より御支配被成候様ニ者被致候哉、是ハ申立候程朝鮮之外聞悪事ニ而候、  
乍然少々心得ニよつて大ニ了簡違事有之候、今度之儀對馬守殿より嶋之争被致ニ而曾  
而無之候、此方より被申越候趣意者、御返簡ニ蔚陵嶋之文字見江候儀、志嶋二名ニ被  
成たる様ニ紛敷書面ニ候故、粉物者難請取与書簡之論ニ而候、此紛返簡 東武江上  
ケ被申候者、必定從東武嶋を御論被成候而可被仰越与此段大切ニ被存候而之儀ニ候、  
此段能合点候而、接慰官東菜江も可申達候、蔚陵嶋之文字除候而も名目朝鮮ニ殘シ候  
儀ハ、幾重ニも了簡可有之事ニ候、兎角此文字不被差除候而者決而大事此節ニ候由申  
達候処、蔚陵嶋之文字除候儀ハ決而無之事ニ候由申候付、接慰官江茶礼之節申渡候様  
御除不被成御了簡之上ハ、如何様ニも蔚陵嶋御書込之專立候様ニ有之候ハ、埒明事ニ  
候由申候ハ、接慰官能被致合点候間具ニ被致注進候ハ、定而宜申參候、下書可掛  
御目候間御了簡被成候へと申ニ付、蔚陵嶋之文字不除返簡ニ候へハ我等心ニ宜存候而  
も、江戸江不申越候へハ難成候、下書為見候程之事ニ候へハ、對馬守殿望有之候ハ、  
幾重にも直シ可申与之朝廷方心入ニ而無之候へハ、下書被見候而茂相談与申無尊事ニ  
候、爰を能合点候哉与申聞候処、御相談之御心入ニ御座候へハ、朝廷方茂何異儀之心  
可有御座哉直りかたき事も御相談可被申与存候由申聞ル

〳 此時彼方より之手段ニ嶋二名与申事を先御使者之口より申出させ候主意ニ而誠以恐る  
へき事ニ候所、其心付無之一筋ニ訊官を叱り付ケ候勢を相以相濟メ候存寄与相見江候、  
惣而人々朝鮮人を鈍なる志ニ而億病なる者と斗心得居候へとも、左様ニ而無ク之事之  
變ニ處置いたし候事、甚精しく事之決断も速ニ在之、後來之患を思慮いたし候事も深  
く候段、竹嶋一件之始末ニ而大方可相知事ニ候